

## 平成 28 年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査の結果について

平成 29 年 9 月 こども青少年局

## 大阪市子どもの生活に関する実態調査の概要

### 1 目的

こどもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できる社会の実現をめざし、行政が的確な施策を実施するため、正確に現状を把握し、得られた結果から今後の施策を検討することを目的として実施しました。

### 2 調査対象者

- (1) 大阪市立小学校5年生の全児童とその保護者(平成28年4月1日に大阪府に移管された特別支援学校の児童とその保護者を含む)
- (2) 大阪市立中学校2年生の全生徒とその保護者(平成28年4月1日に大阪府に移管された特別支援学校の生徒とその保護者を含む)
- (3) 大阪市内認定こども園、幼稚園、保育所の全5歳児の保護者(大阪市内の一部の認可外保育施設の保護者を含む)

### 3 調査方法

学校園、保育所等を通じて調査対象者の世帯に調査票を配付し、回収しました。

### 4 調査実施日

平成28年6月27日～平成28年7月14日

### 5 調査票配付・回収率(数)

種類	回収率(%)	回収数	配付数
小学校5年生	80.3	14,526	18,098
小学校5年生の保護者	80.3	14,531	18,098
中学校2年生	74.2	13,342	17,984
中学校2年生の保護者	74.2	13,351	17,984
学年不明 こども		8	
学年不明 保護者		38	
小学校5年生・中学校2年生合計	77.3	27,876	36,082
小学校5年生保護者・中学校2年生保護者合計	77.4	27,920	36,082
5歳児の保護者	74.8	14,736	19,694
計	76.8	70,532	91,858

## 大阪市子どもの生活に関する実態調査のスキーム

これまでの学識者等による貧困研究において、①経済的資本、②ソーシャルキャピタル(社会関係資本)、③ヒューマンキャピタル(人的資本)の3つの資本の欠如に焦点をあてるのが基本的な枠組みとなっており、大阪市子どもの生活に関する実態調査(以下、本文中では「実態調査」といいます。)においても、3つの資本の欠如に焦点をあてて調査を行いました。

### ①経済的資本の欠如

所得や資産等生活に必要な資源の欠如(現金やサービス、住宅、医療などを含む。)

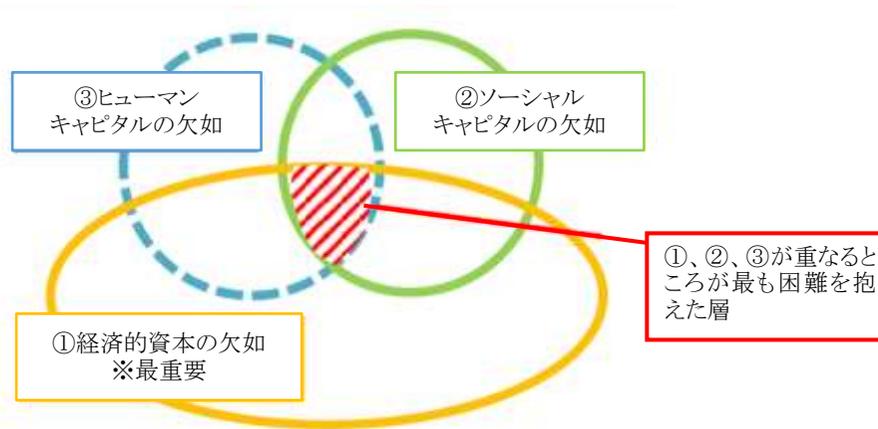
### ②ソーシャルキャピタルの欠如

つながりの欠如、近隣・友人との関係性の欠如、学校・労働市場への不参加

### ③ヒューマンキャピタルの欠如

健康や教育などの欠如、自分の能力を労働力(稼働)に転換する能力の欠如

### 大阪市子どもの生活に関する実態調査のスキーム



## 大阪市子どもの生活に関する実態調査における困窮度の分類

国が実施している国民生活基礎調査においては、OECD の作成基準に基づき、等価可処分所得の中央値の 50%を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合を相対的貧困率としています。

実態調査においても、実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、等価可処分所得を基に区分した困窮度を用いていますが、EU(欧州連合)やUNICEF(国際連合児童基金)においては等価可処分所得の中央値の 60%の額が採用されることもあり、下表のとおり4つの区分に困窮度を分類することとしました。

ただし、実態調査における世帯の所得額については、回答者の負担感や回収率への影響を考慮し、所得額等について 50 万円から 100 万円といった数値の幅をもった選択肢で把握することとしたため、等価可処分所得の算定については、所得の選択肢のそれぞれ上限値と下限値の平均値(例えば、所得の選択肢が 250 万円～300 万円の場合は 275 万円となります。)に基づき行っています。

### ※等価可処分所得

世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員数の平方根で割って調整した所得

(世帯人員数が少ないほど生活コストが割高になることを考慮する必要があることから、世帯人員数の平方根を用いて世帯人員数の違いを調整します。)

困窮度分類	基準	小5・中2のいる世帯	5歳児のいる世帯
中央値以上	等価可処分所得中央値(実態調査では 238 万円)以上の層	50.0%	52.5%
困窮度Ⅲ	等価可処分所得中央値未満でから 60%以上の層	28.1%	29.6%
困窮度Ⅱ	等価可処分所得中央値の 50%以上 60%未満の層	6.6%	6.1%
困窮度Ⅰ	等価可処分所得中央値の 50%未満の層	15.2%	11.8%

(参考)等価可処分所得と生活水準との関係

	等価可処分所得	左の場合の生活水準		
		2人家族の場合	3人家族の場合	4人家族の場合
中央値	238 万円	約 28 万円/月	約 34.4 万円/月	約 39.7 万円/月
中央値の 60%	142.8 万円	約 16.8 万円/月	約 20.6 万円/月	23.8 万円/月
中央値の 50%	119 万円	約 14 万円/月	約 17.2 万円/月	約 19.8 万円/月

# 経済的資本の欠如の状況

## 1 困窮度別に見た経済的理由による経験

・困窮度別に見た、子どもに対する経済的な理由による経験

小5・中2のいる世帯(図 110)



5歳児のいる世帯(図 61)

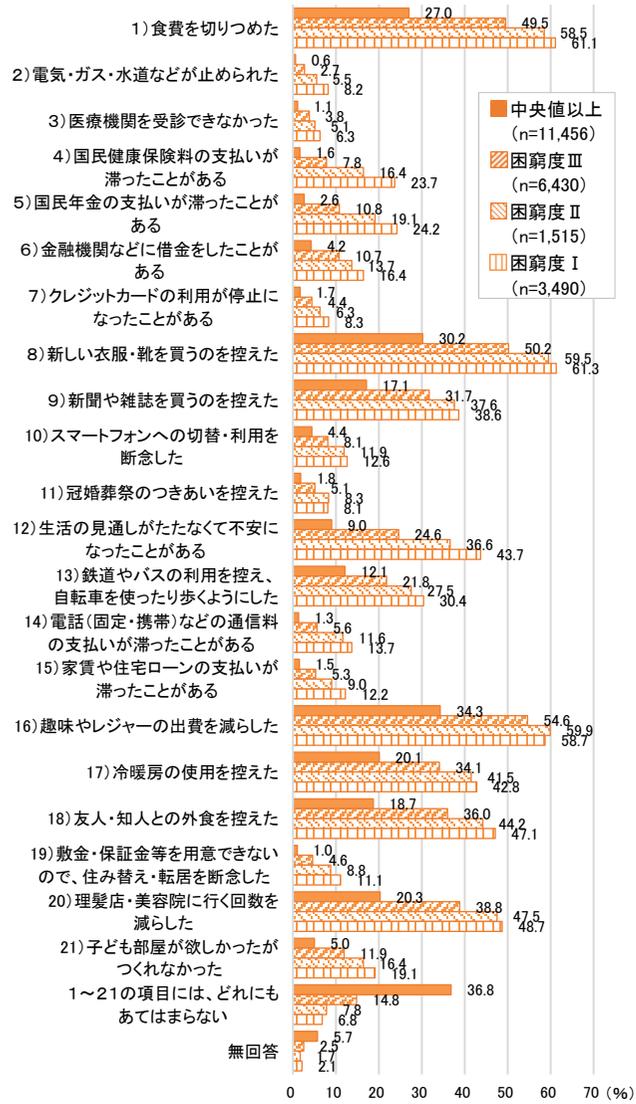


子どもに対する経済的理由による経験について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、「子どもの誕生日を祝えなかった(17.7倍)」「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった(12.8倍)」「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった(12.5倍)」の順に大きくなっています。

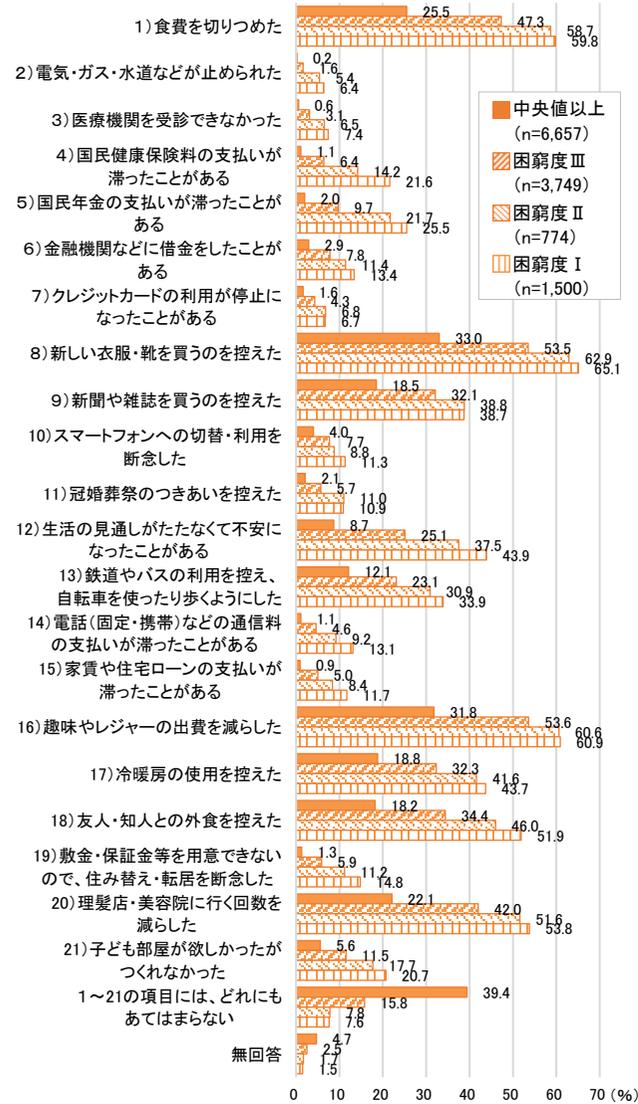
5歳児のいる世帯では、「子どもの誕生日を祝えなかった(17倍)」「子どもを医療機関に受診させることができなかった(14倍)」「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった(12倍)」の順に大きくなっています。

・困窮度別に見た、世帯における経済的な理由による経験

小5・中2のいる世帯(図 109)



5歳児のいる世帯(図 60)

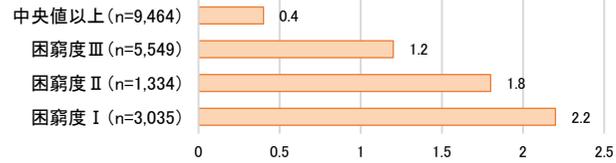


世帯における経済的な理由による経験を、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある(14.8倍)」「電気・ガス・水道などが止められた(13.7倍)」「敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した(11.1倍)」の順に大きくなっています。

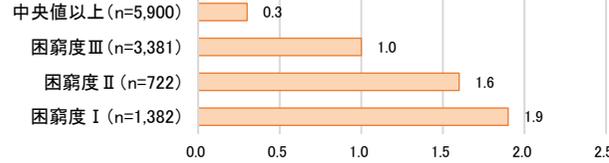
5歳児のいる世帯では、「電気・ガス・水道などが止められた(32倍)」「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある(19.6倍)」「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある(13倍)」の順に大きくなっています。

・困窮度別に見た、こどもに対する経済的な理由による経験の該当数の平均

小5・中2のいる世帯(図 113)



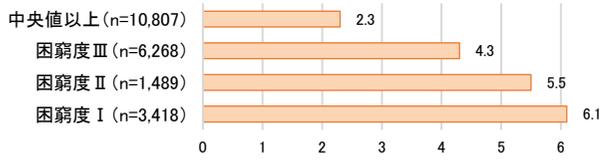
5歳児のいる世帯(図 63)



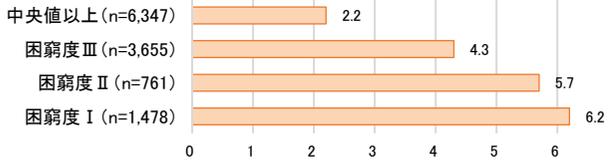
こどもに対する経済的な理由による経験として示した項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出すると、いずれも、困窮度が高くなるにつれ該当数の平均は多くなっています。

・困窮度別に見た、世帯における経済的な理由による経験の該当数の平均

小5・中2のいる世帯(図 112)



5歳児のいる世帯(図 62)

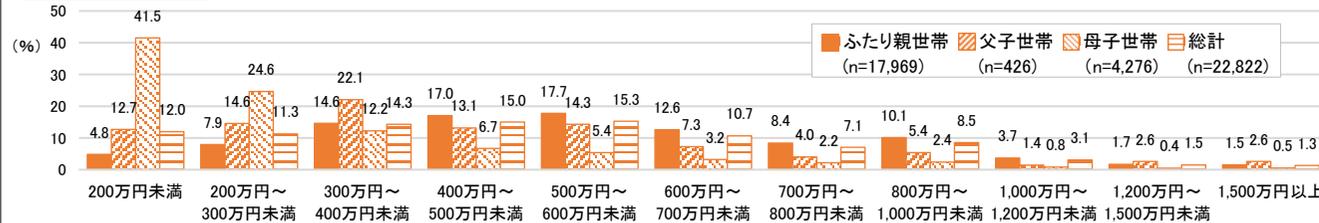


世帯における経済的な理由による経験として示した項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出すると、いずれも、困窮度が高くなるにつれ該当数の平均は多くなっています。

2 世帯構成別に見た経済状況等

・世帯構成別に見た収入の状況

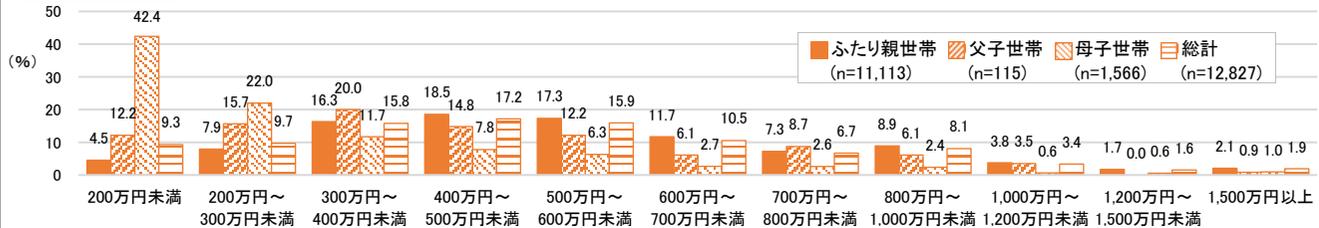
小5・中2のいる世帯(new)



世帯構成別に収入の状況を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、最も割合の多い年収の階層が低くなっています。

小学校5年生・中学校2年生のいる世帯の場合、ふたり親世帯は500万円～600万円未満の世帯が最も多いのに対し、父子世帯は300万円～400万円未満、母子世帯は200万円未満の世帯が最も多くなっています。

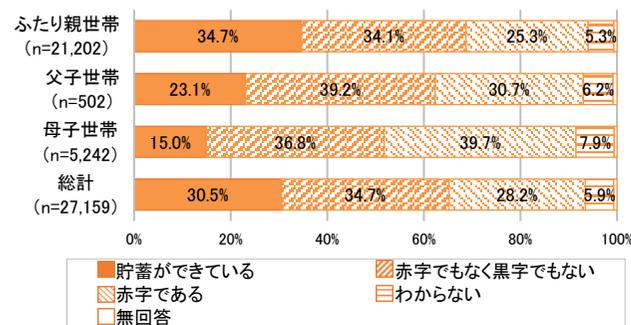
5歳児のいる世帯(new)



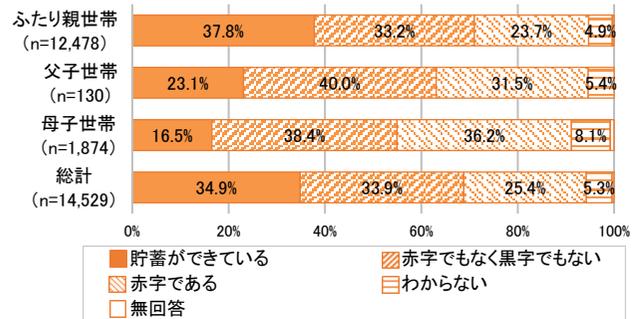
5歳児のいる世帯の場合、ふたり親世帯は400万円～500万円未満の世帯が最も多いのに対し、父子世帯は300万円～400万円未満、母子世帯は200万円未満の世帯が最も多くなっています。

・世帯構成別に見た家計の状況

小5・中2のいる世帯(図 116)



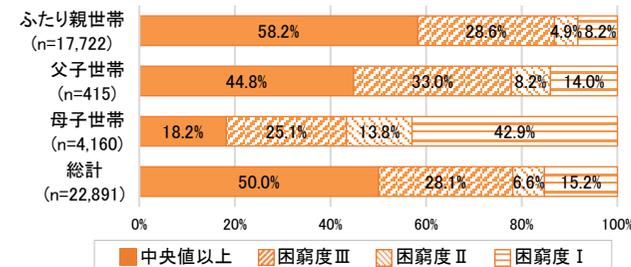
5歳児のいる世帯(図 65)



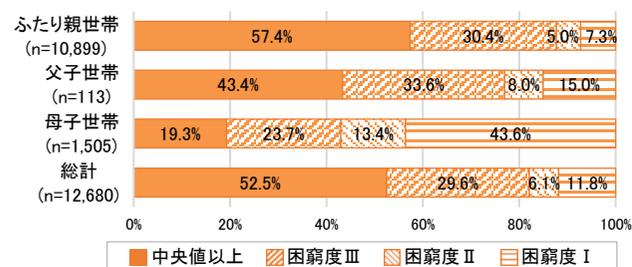
世帯構成別に見た家計の状況を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯ともに、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなっています。

・世帯構成別に見た困窮度

小5・中2のいる世帯(new)



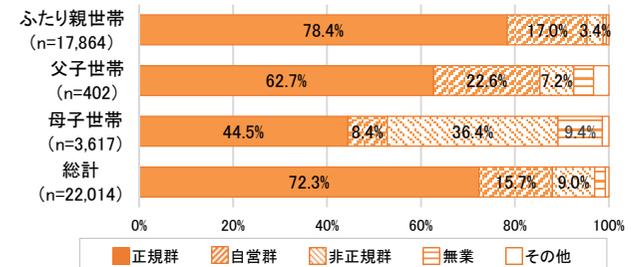
5歳児のいる世帯(new)



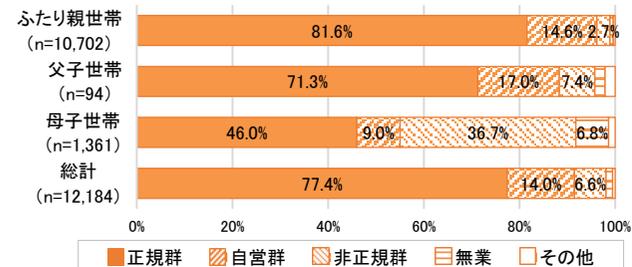
世帯構成別に見た困窮度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、困窮度Ⅰの割合(相対的貧困率)が高くなり、特に、母子世帯においては、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では42.9%、5歳児のいる世帯では43.6%となっています。

・世帯構成別に見た就労状況

小5・中2のいる世帯(図 177)

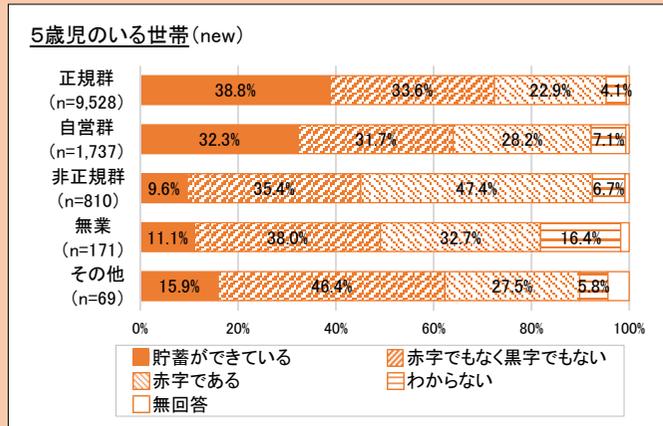
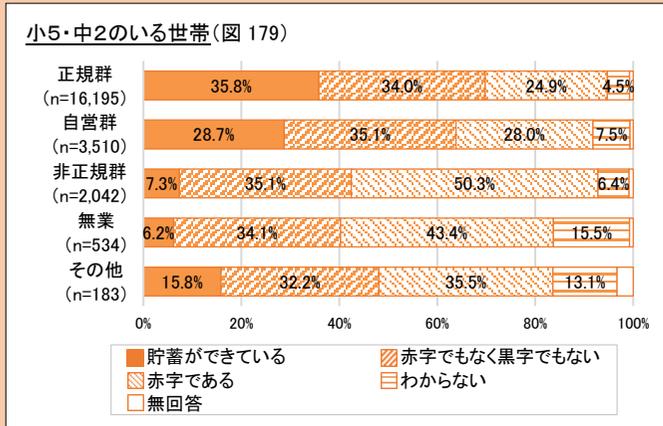


5歳児のいる世帯(図 114)



世帯構成別に見た就労状況を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、正規群の割合が低くなっています。

・就労状況別に見た家計状況



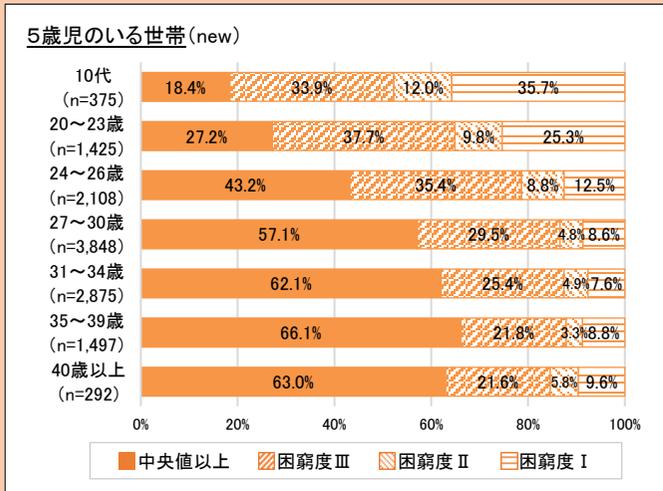
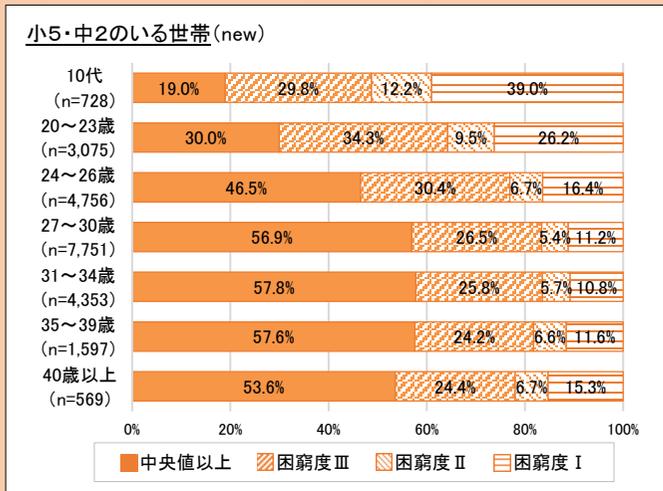
家計の状況は雇用形態によっても違いがみられ、就労状況別に見ると、貯蓄ができていると回答した割合は、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯ともに、正規群に比べ、非正規群が低くなっています。

※項目の分類の考え方は次のとおり。

- 正規群：父母あるいは主たる生計者に「常勤・正規職員」が含まれている。
- 自営群：正規群以外で、父母あるいは主たる生計者に「自営業・家業」が含まれている。
- 非正規群：正規群・自営群以外で、父母あるいは主たる生計者に「パートまたはアルバイト、非正規職員」が含まれている。
- 無業：正規群・自営群・非正規群以外で、誰も働いていない。
- その他：正規群、自営群、非正規群、無業以外。

3 初めて親となった年齢別に見た母親の状況

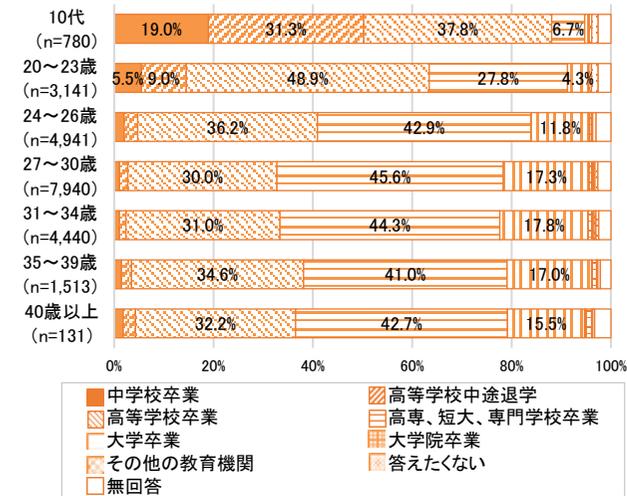
・初めて親となった年齢別に見た、困窮度(母親が回答者)



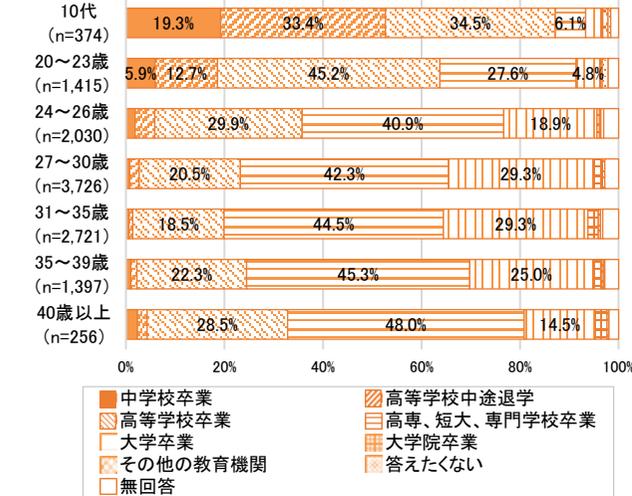
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に困窮度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群が最も困窮度Ⅰの割合(相対的貧困率)が高くなり、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では 39.0%、5歳児のいる世帯では 35.7%となっています。

・初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴(母親が回答者)

小5・中2のいる世帯(new)



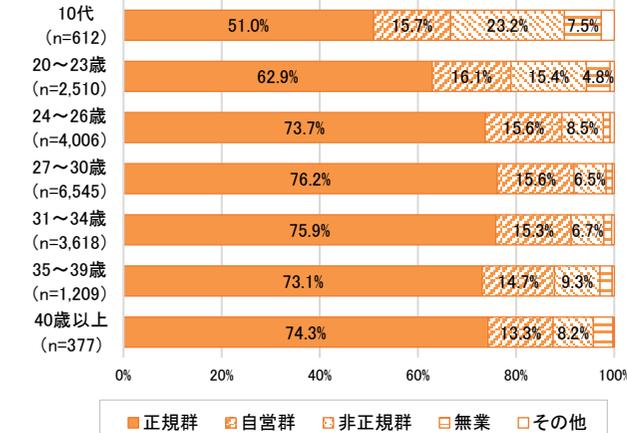
5歳児のいる世帯(new)



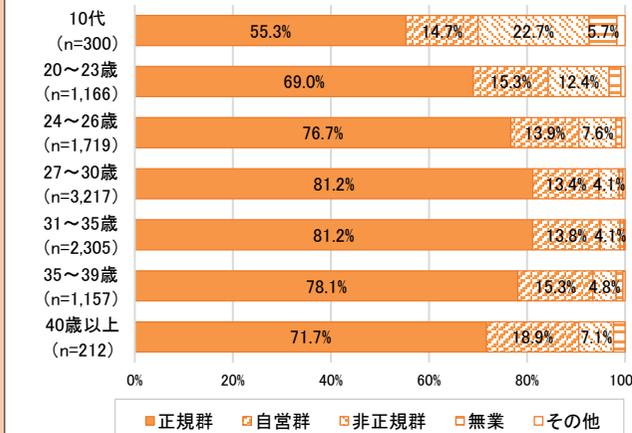
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親の最終学歴を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、10代で初めて親となった群で中学校卒業と高等学校中途退学の割合が特に高く、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では50.3%、5歳児のいる世帯では52.7%と、ともに半数を超えています。

・初めて親となった年齢別に見た就労状況(母親が回答者)

小5・中2のいる世帯(new)



5歳児のいる世帯(new)

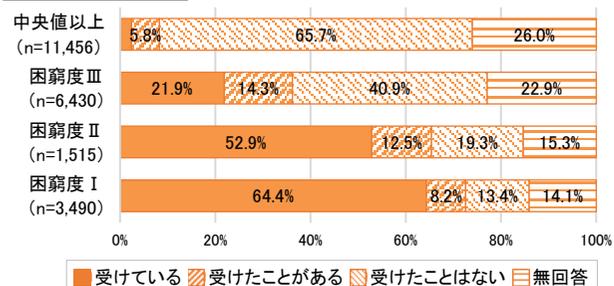


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、若年で親になった世帯の方が、正規群の割合が低くなっています。

#### 4 困窮度別に見た制度の受給状況

##### ・困窮度別に見た、就学援助の受給状況

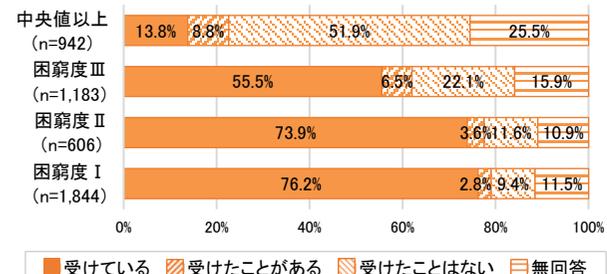
小5・中2のいる世帯(図 126)



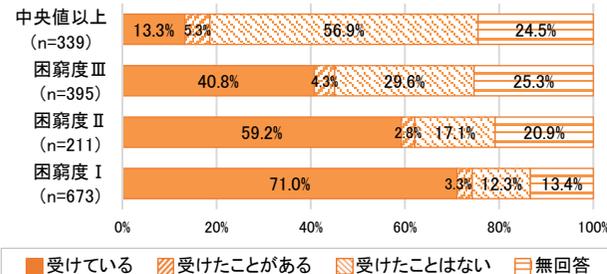
就学援助の受給状況について困窮度別に見ると、困窮度が高くなるにつれて受給率が高くなっており、困窮度Ⅰ群では64.4%が受給しています。しかし、困窮度Ⅰ群でも受けたことのない割合が13.4%となっています。

##### ・困窮度別に見た、児童扶養手当受給状況(ひとり親世帯)

小5・中2のいる世帯(図 127 の補足図)



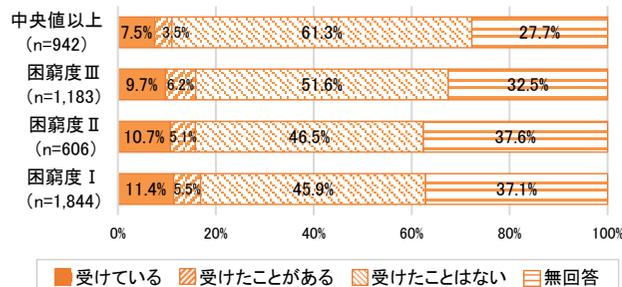
5歳児のいる世帯(new)



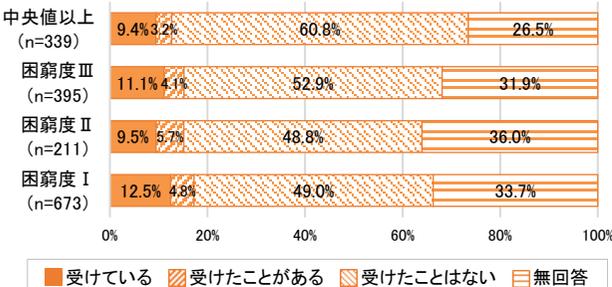
ひとり親世帯の回答者を対象として、児童扶養手当の受給状況について困窮度別に見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯とも、困窮度が高くなるにつれて受給率が高くなっており、困窮度Ⅰ群では、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯の76.2%、5歳児のいる世帯の71.0%が受給しています。しかし、困窮度Ⅰ群でも受けたことのない割合が10%程度あります。

##### ・困窮度別に見た、養育費受給状況(ひとり親世帯)

小5・中2のいる世帯(図 152 の補足図)



5歳児のいる世帯(new)

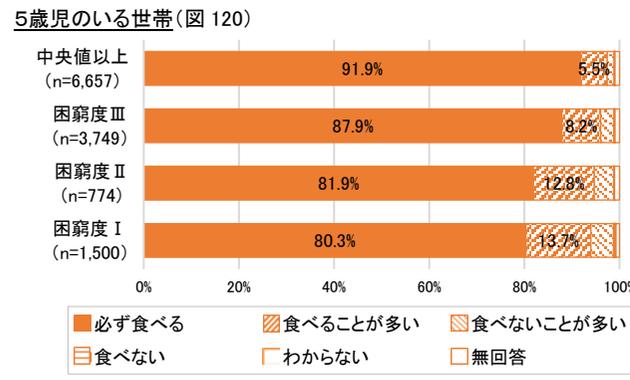
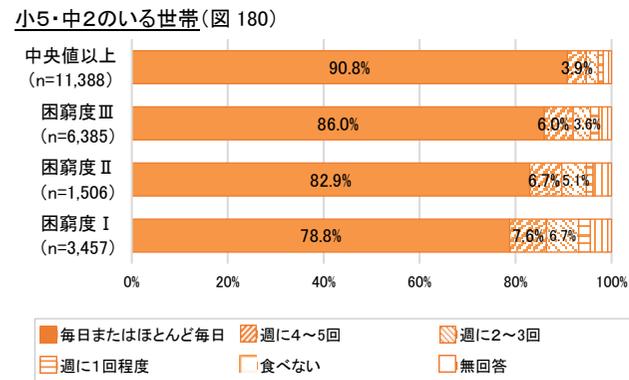


公的な制度ではありませんが、ひとり親世帯の回答者を対象として、養育費の受給状況について見ると、小学校5年生・中学校2年生のいるひとり親世帯、5歳児のいるひとり親世帯とも、困窮度に関わらず、10%程度にとどまっています。

# ヒューマンキャピタルの欠如の状況

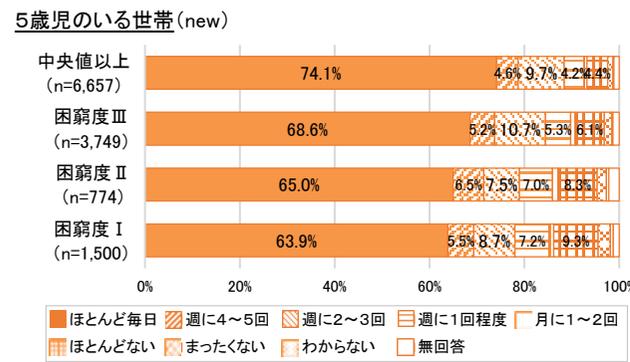
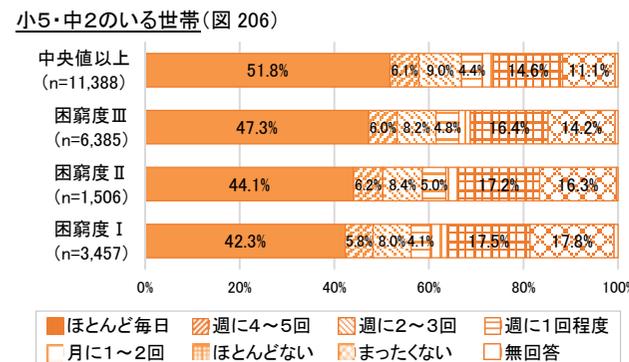
## 1 困窮度別に見た生活習慣の状況

### ・困窮度別に見た朝食の頻度



困窮度別に朝食の頻度の状況を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合が低くなり、5歳児のいる世帯においては、「必ず食べる」と回答する割合が低くなっています。

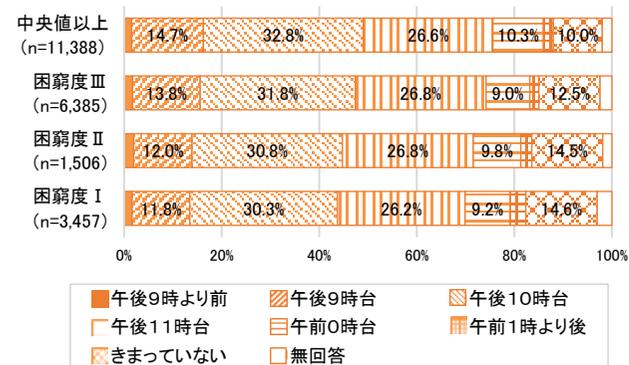
### ・困窮度別に見た、おうちの大人と朝食を食べるか



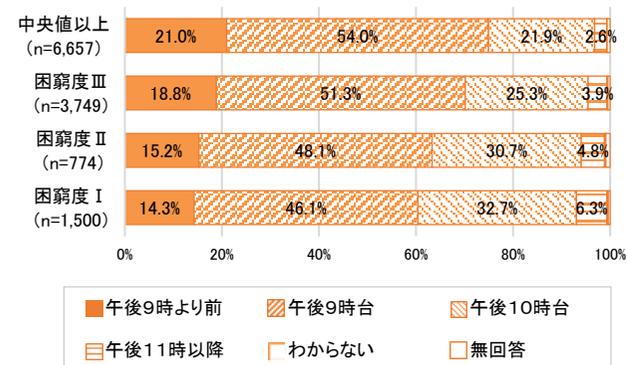
困窮度別におうちの大人と朝食を食べる割合を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯ともに、困窮度が高くなるにつれ、「ほとんど毎日」と回答する割合が低くなっています。

・困窮度別に見た就寝時間

小5・中2のいる世帯 (new)



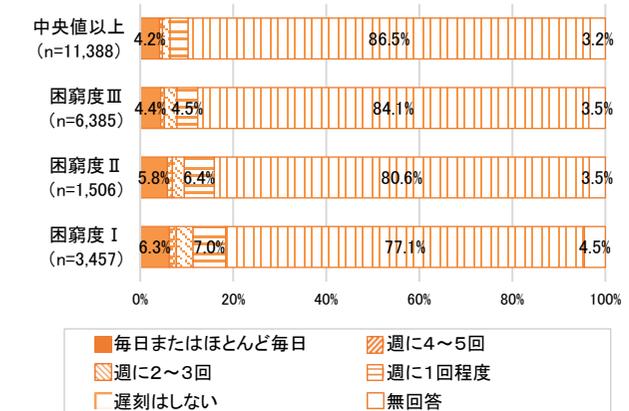
5歳児のいる世帯 (new)



困窮度別に就寝時間を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯、5歳児のいる世帯ともに、困窮度が高くなるにつれ、就寝時間が遅くなる傾向がみられます。

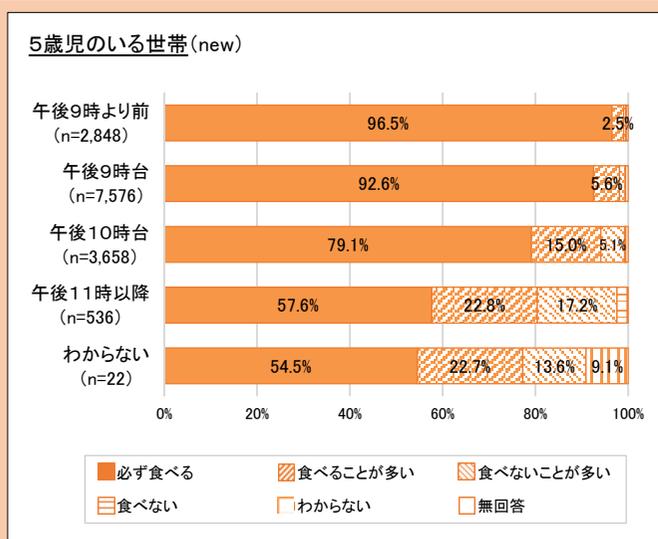
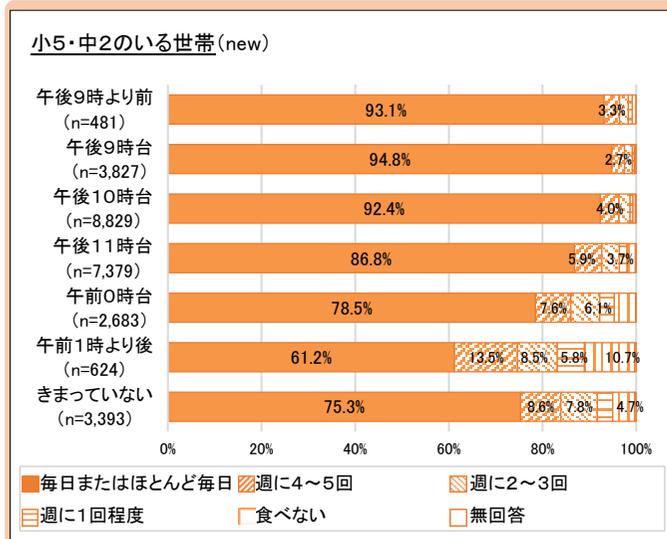
・困窮度別に見た遅刻の状況

小5・中2のいる世帯 (図 243)



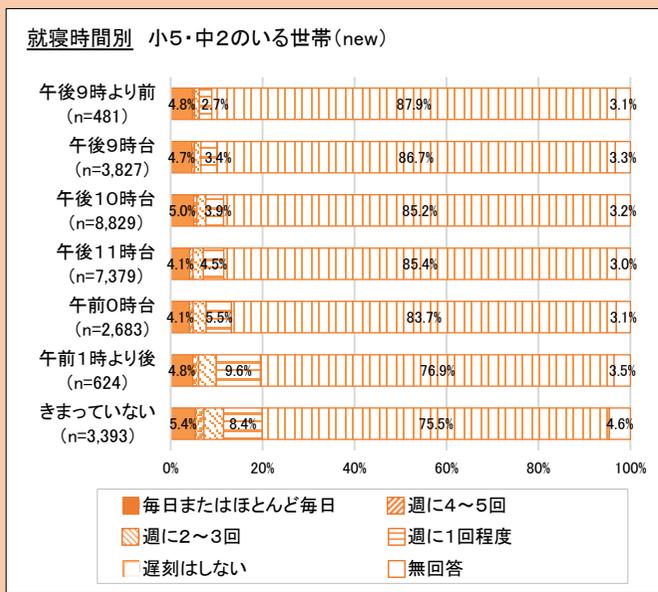
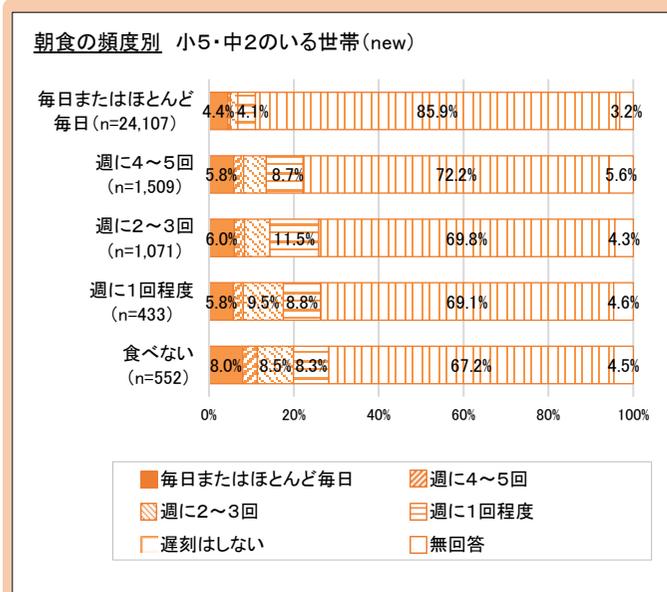
学校への遅刻の状況について、困窮度別に見ると、困窮度が高くなるにつれ、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっています。

## 2 就寝時間別に見た朝食の頻度



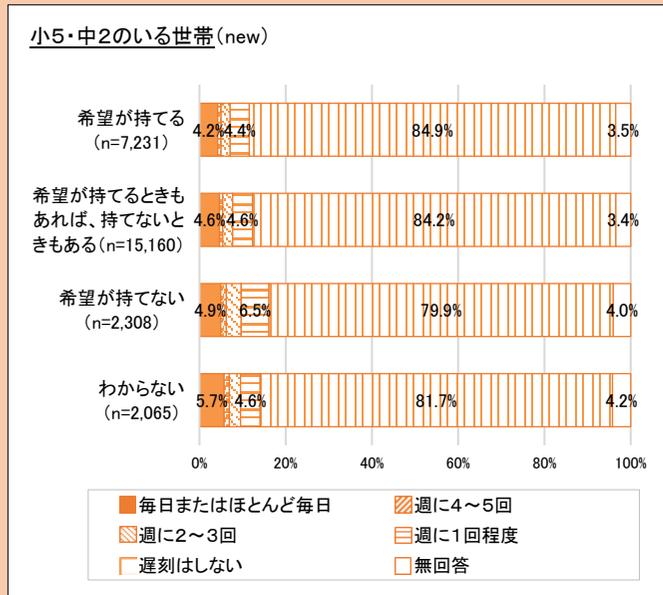
就寝時間別に朝食の頻度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっており、5歳児のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「必ず食べる」割合が低くなっています。

## 3 朝食の頻度別、就寝時間別に見た遅刻の状況



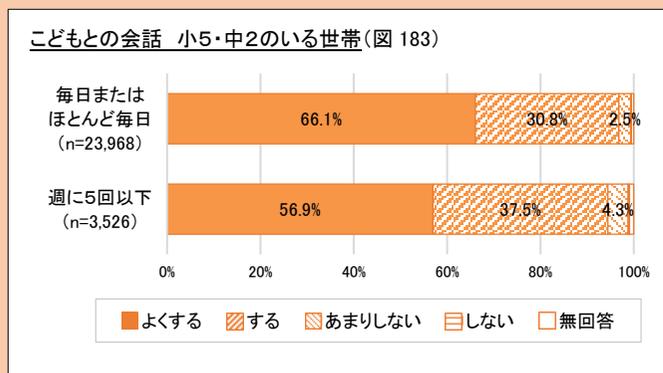
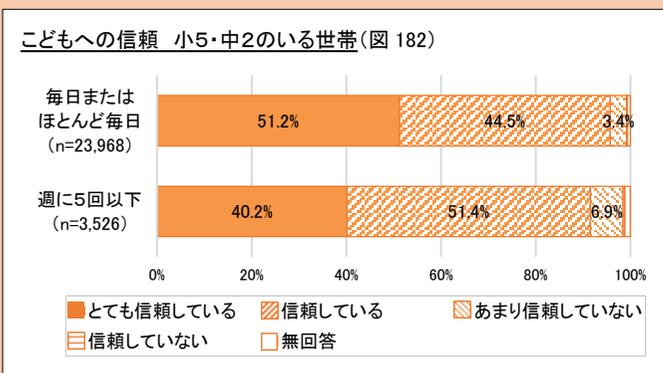
困窮度が高くなるにつれ、朝食や睡眠に関する望ましい生活習慣が定着していない割合が高くなっていきますが、朝食の頻度別、就寝時間別に遅刻の状況を見ると、望ましい生活習慣が定着していないほうが、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっており、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べる場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 85.9%であるのに対し、朝食を「食べない」場合は 67.2%となっています。また、就寝時間が「午後9時台」の場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 86.7%であるのに対し、「午前1時より後」の場合は 76.9%となっています。

#### 4 保護者の将来への希望別に見た遅刻の状況



「希望が持てる」場合は「遅刻はしない」と回答する割合は 84.9%であるのに対し、「希望が持てない」場合は 79.9%となっています。

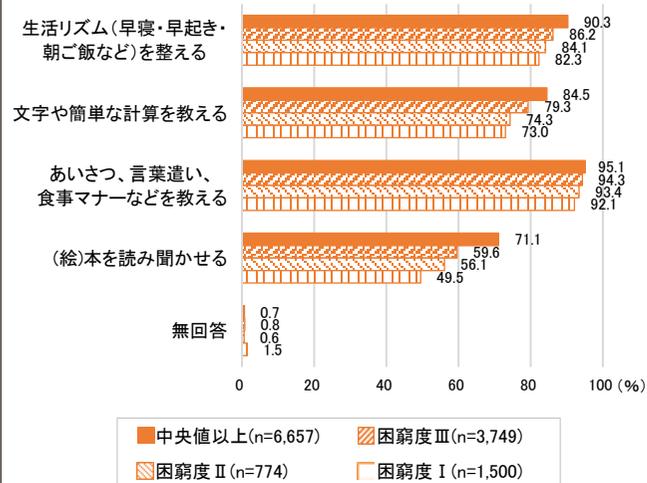
#### 5 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもとの関わり



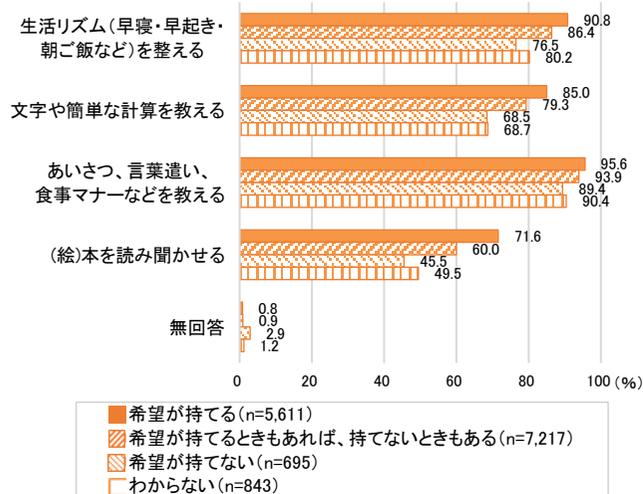
朝食の頻度と保護者と子どもとの関わりについて見ると、「毎日またはほとんど毎日」群の方が、子どもを「とても信頼している」と回答する割合が高く、また、子どもと会話を「よくする」と回答する割合が高くなっています。

## 6 5歳児におけるしつけの状況

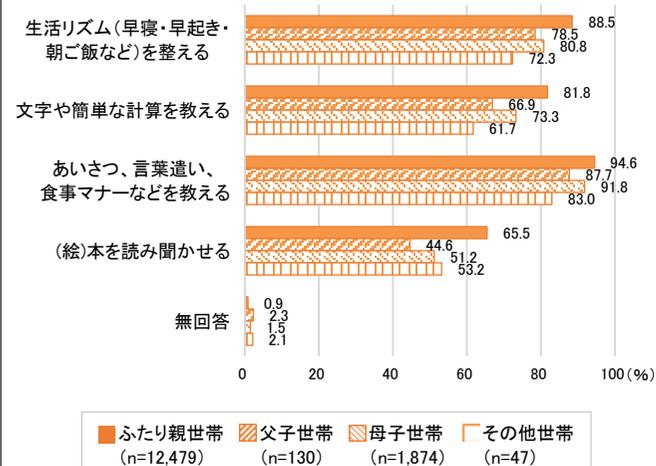
困窮度別(図 160)



保護者の将来への希望別(図 162)



世帯構成別(new)



乳幼児期は、こどもの健やかな発育・発達及び健康の保持・増進の基盤となる時期であると同時に、望ましい食習慣や生活習慣の形成に極めて大きな役割を果たす時期です。

困窮度別にしつけの状況を見ると、困窮度が高いほど、しつけをしている割合が低くなっています。

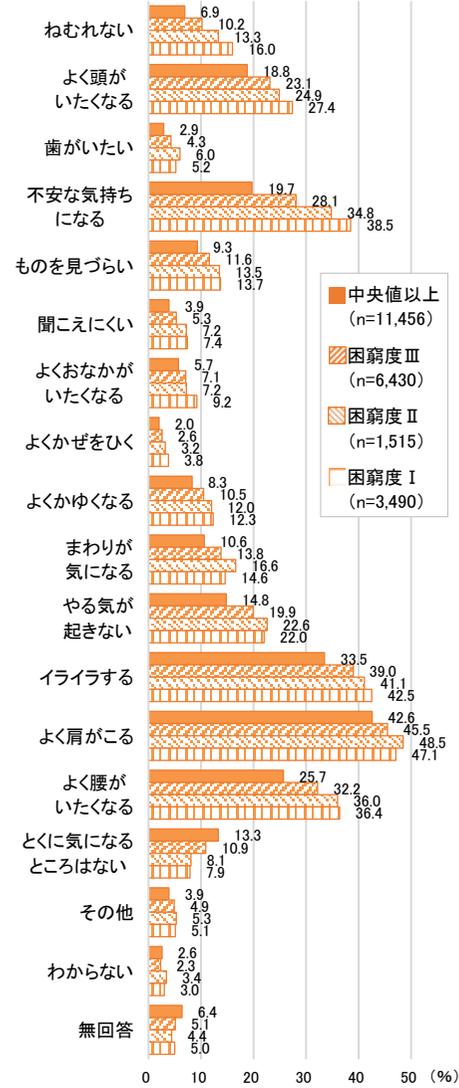
保護者の将来への希望別にしつけの状況を見ると、希望が持てないほど、しつけをしている割合が低くなっています。

世帯構成別にしつけの状況を見ると、ふたり親世帯、母子世帯、父子世帯の順にしつけをしている割合が低くなっています。

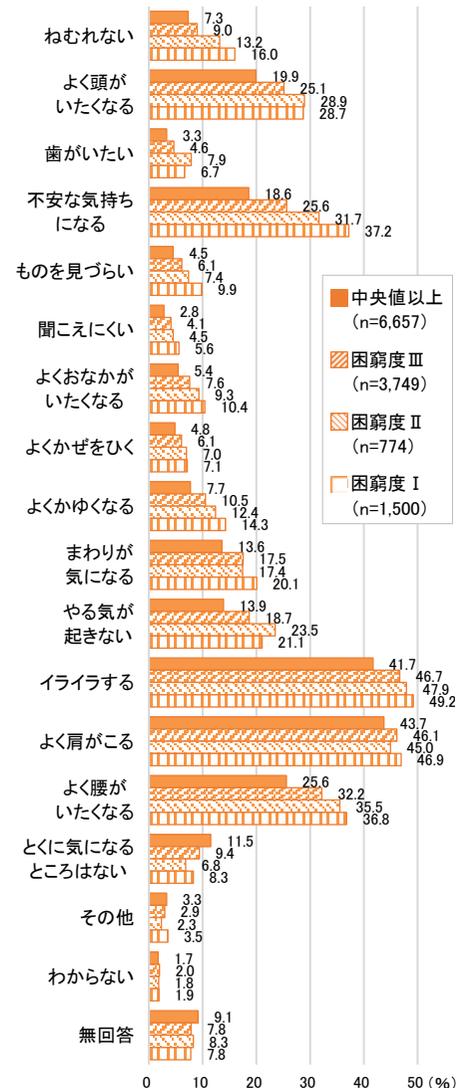
## 7 心身の自覚症状

### ・困窮度別

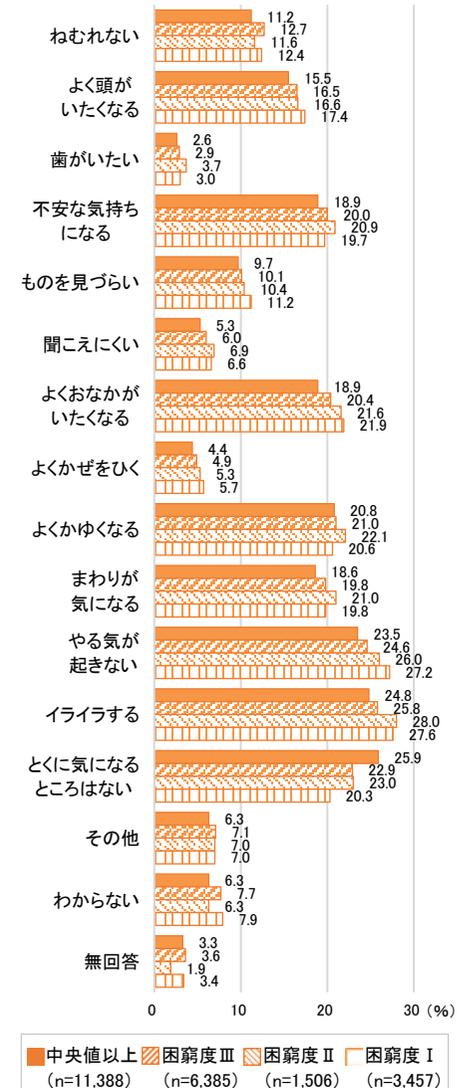
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(図 194)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(こども回答)(図 192)



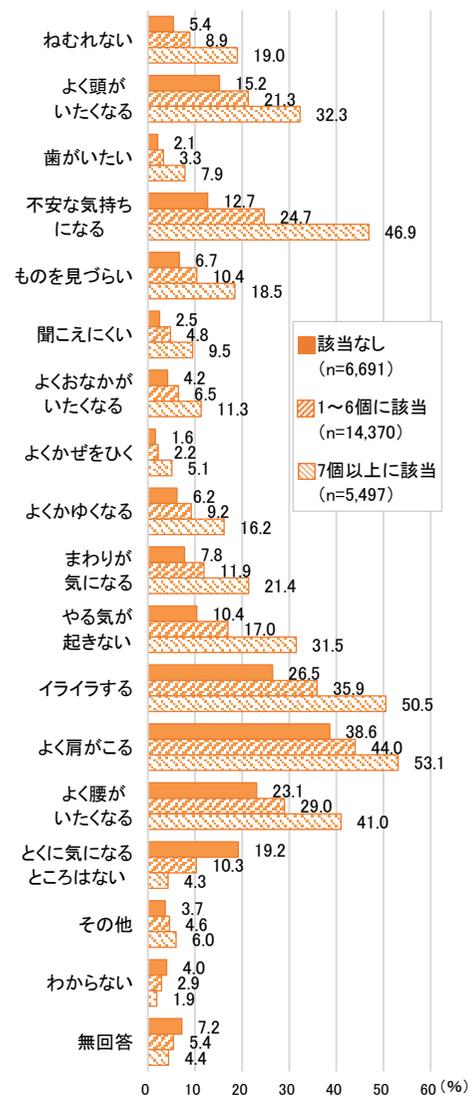
心身の自覚症状について、困窮度別に中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.3倍)」「よくかぜをひく(1.9倍)」「聞こえにくい(1.9倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「ものを見づらい(2.2倍)」「ねむれない(2.2倍)」「歯が痛い(2.0倍)」の順に大きくなっています。

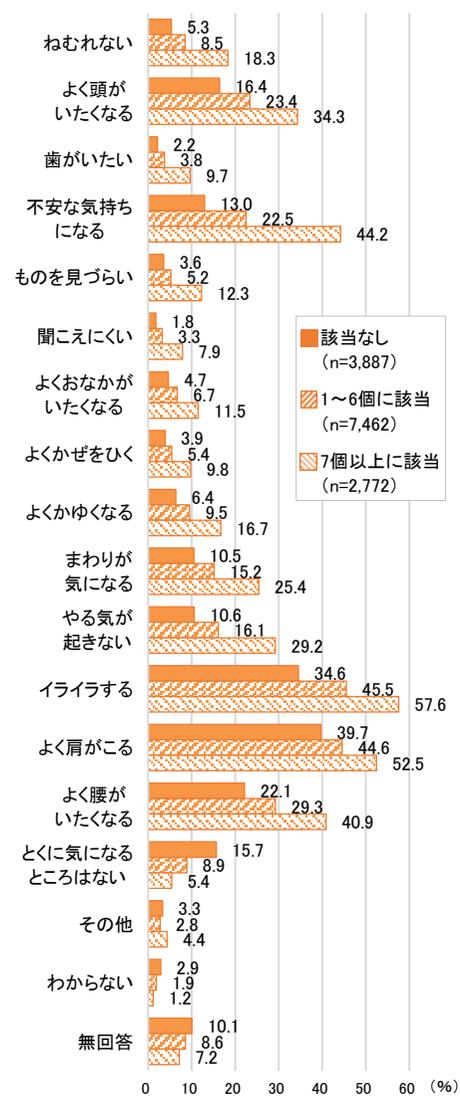
こどもについては、保護者の場合ほどには、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差の倍率が大きい項目はありませんが、「特に気になるところはない」について、中央値以上群が25.9%であるのに対し、困窮度Ⅰ群が20.3%となっています。また、「イライラする」「やる気が起きない」については困窮度に関わらず、およそ4人に1人が該当する状況になっています。

・世帯における経済的な理由による経験該当数別

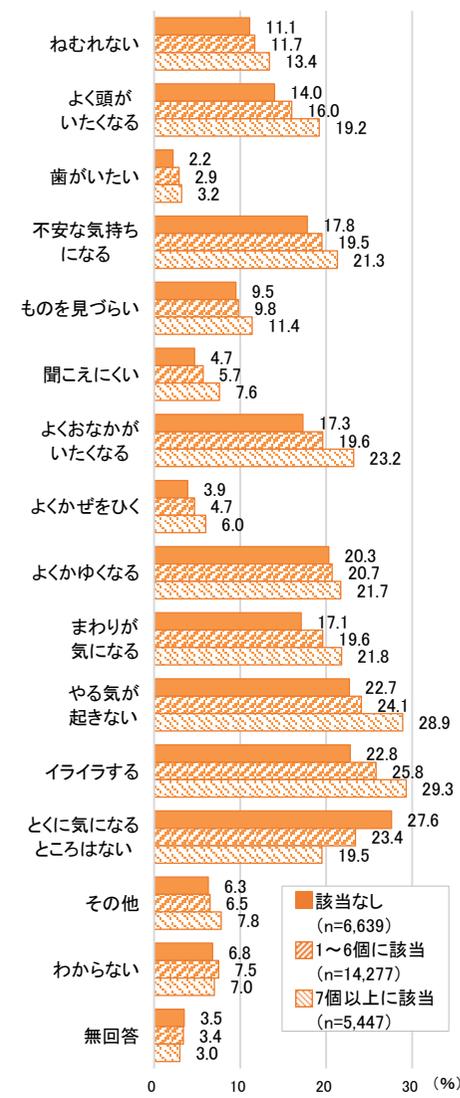
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(図 195)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(子ども回答)(図 193)



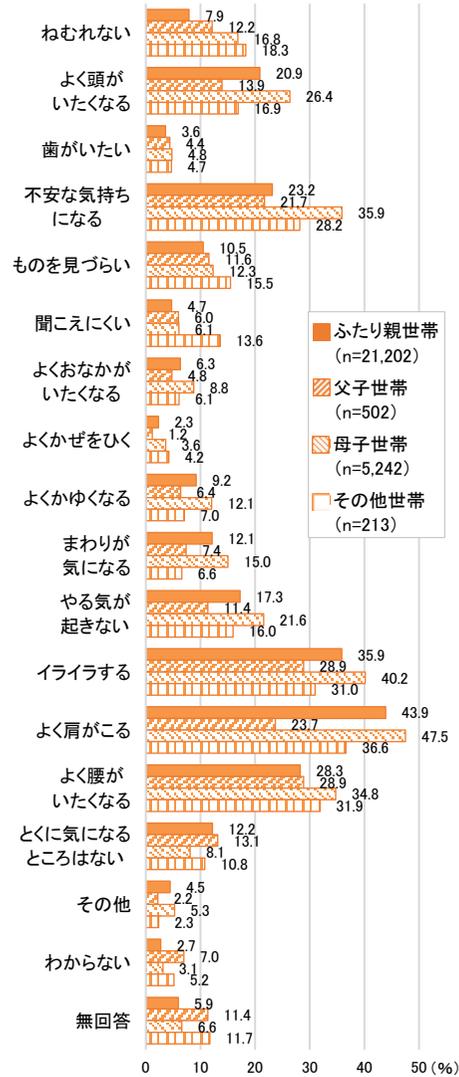
心身の自覚症状について、世帯における経済的な理由による経験(5ページのグラフ参照)の該当数別に、該当なし群と7個以上に該当群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「聞こえにくい(3.8倍)」「歯がいたい(3.8倍)」「不安な気持ちになる(3.7倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「歯がいたい(4.4倍)」「聞こえにくい(4.4倍)」「ねむれない(3.5倍)」の順に大きくなっています。

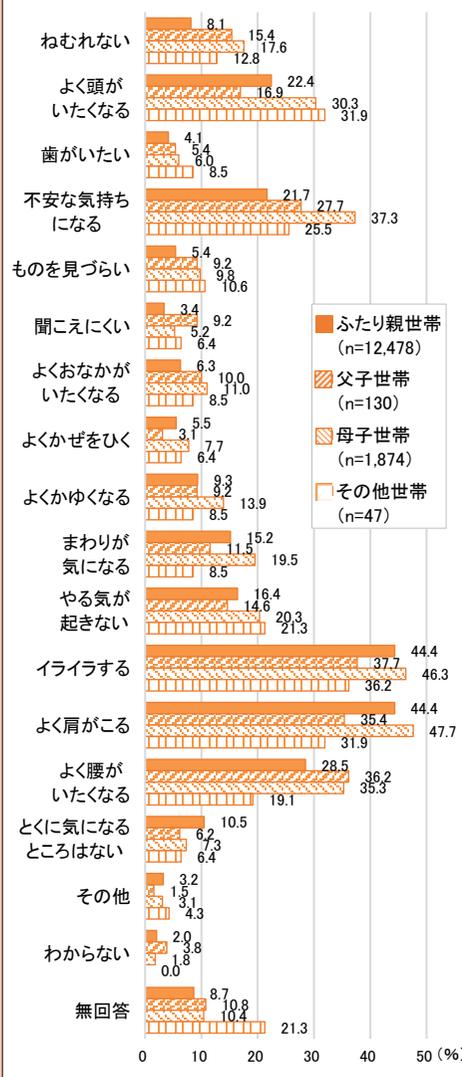
また、子どもについては、「聞こえにくい(1.6倍)」「よくかぜをひく(1.5倍)」「歯が痛い(1.5倍)」の順に大きくなっています。

・世帯構成別

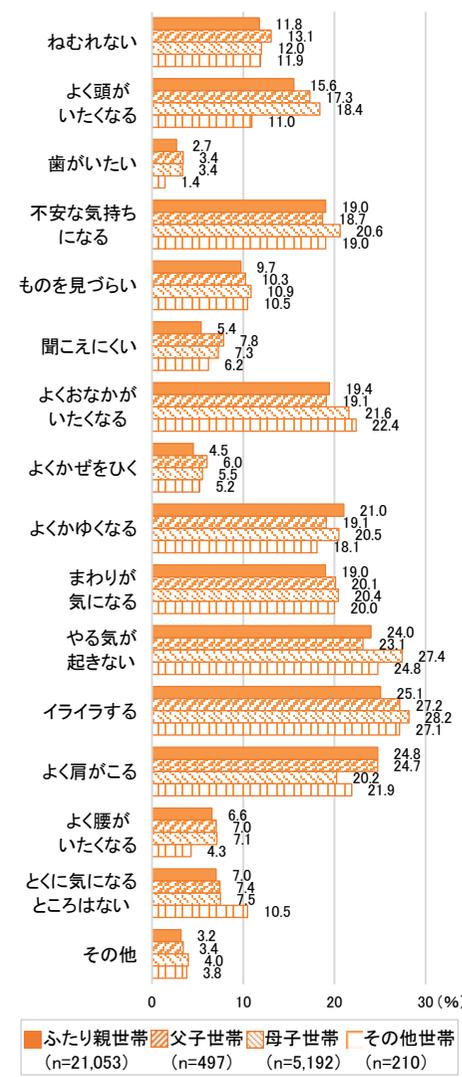
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(new)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(子ども回答)(new)



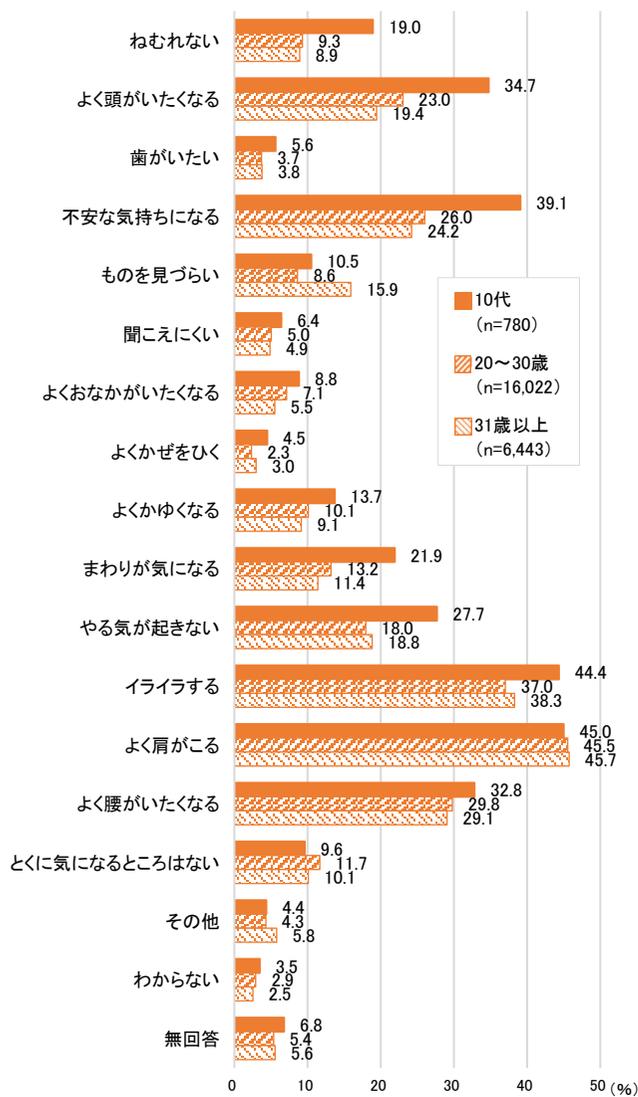
心身の自覚症状について、世帯構成別に、ふたり親世帯と父子世帯又は母子世帯のいずれかとの間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.1倍)」「よくかぜをひく(1.6倍)」「不安な気持ちになる(1.6倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「ねむれない(2.2倍)」「ものを見づらい(1.8倍)」「よくおなかがいたくなる(1.8倍)」の順に大きくなっています。

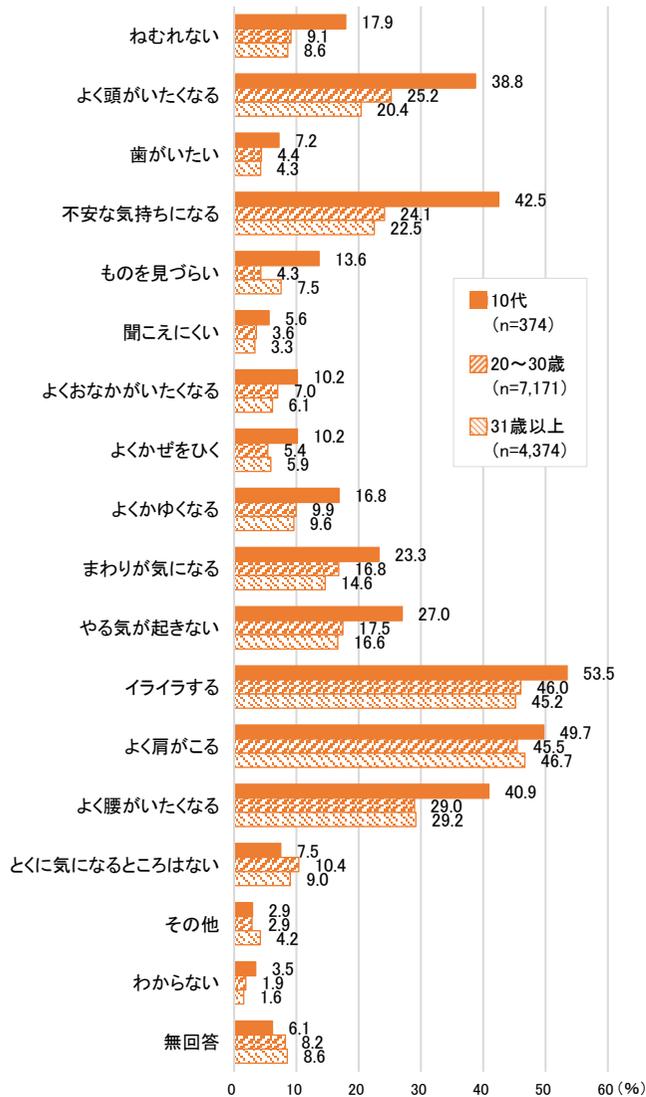
子どもについては、「聞こえにくい(1.4倍)」「よくかぜをひく(1.3倍)」「歯が痛い(1.3倍)」の順に大きくなっています。

・初めて親となった年齢別

小5・中2のいる世帯(保護者回答)(new)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)

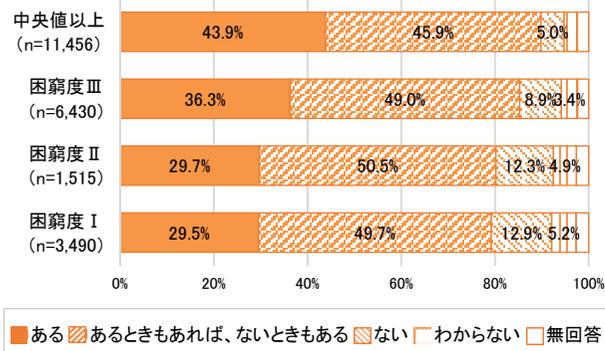


心身の自覚症状について、初めて親となった年齢別に見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者、5歳児の保護者ともに「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」といった項目において、10代群は他の群に比べて顕著に割合が高くなっています。

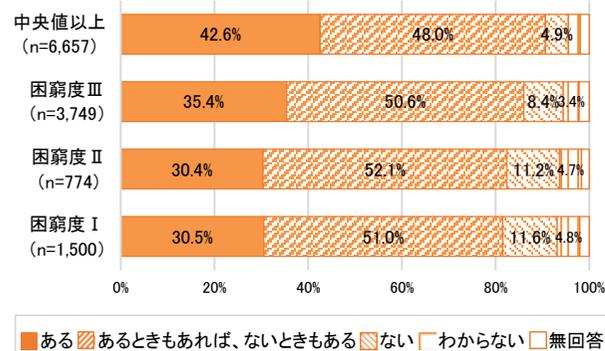


・ストレスを発散できるものが「ある」

小5・中2のいる世帯(図 201)



5歳児のいる世帯(図 141)

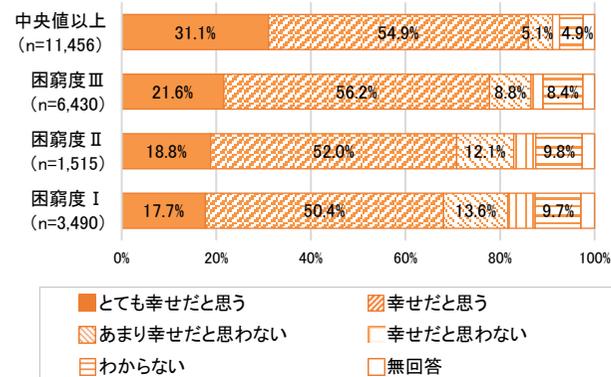


ストレスを発散できるものが「ある」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の43.9%に対し困窮度Ⅰ群は29.5%となっています。

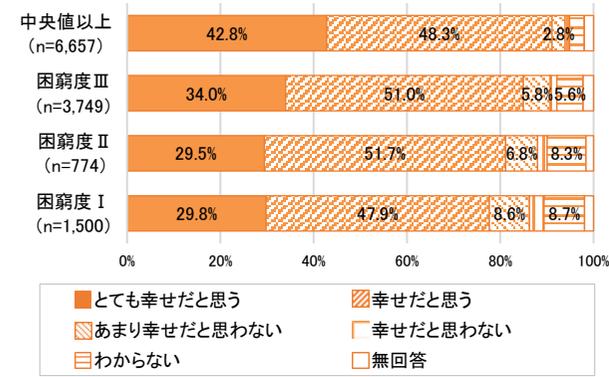
5歳児の保護者では、中央値以上群の42.6%に対し困窮度Ⅰ群は30.5%となっています。

・幸せだと思う

小5・中2のいる世帯(図 202)



5歳児のいる世帯(図 142)

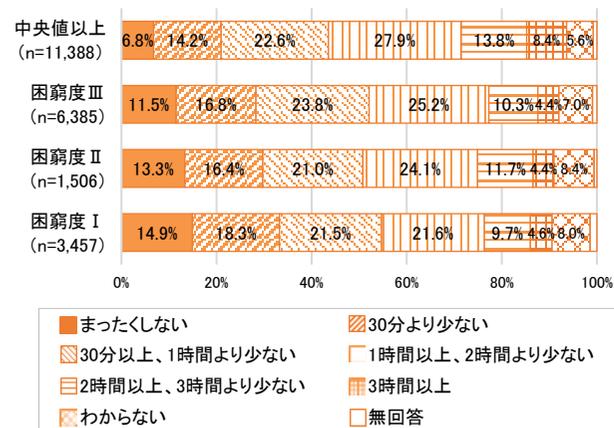


「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の86.0%に対し困窮度Ⅰ群は68.1%となっています。

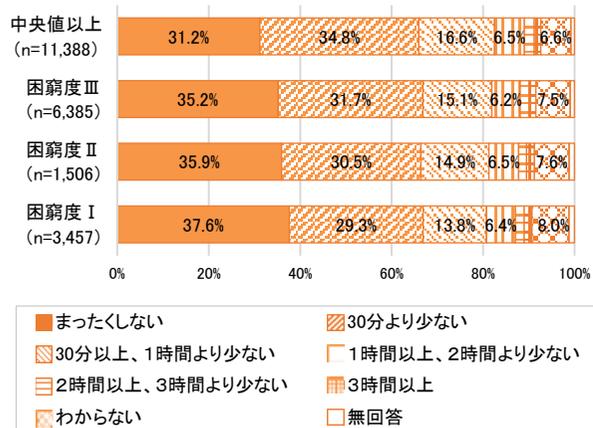
5歳児の保護者では、中央値以上群の91.1%に対し困窮度Ⅰ群は77.7%となっています。

## 9 困窮度別に見た学習の状況(小5・中2のいる世帯)

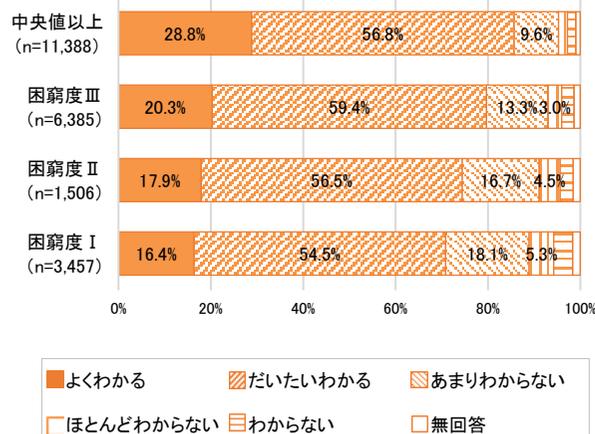
授業以外の勉強時間(図 210)



授業以外の読書時間(図 211)



学習理解度(図 212)



困窮度別に学習の状況について見ると、授業以外の勉強時間については、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 6.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では 14.9%となっています。

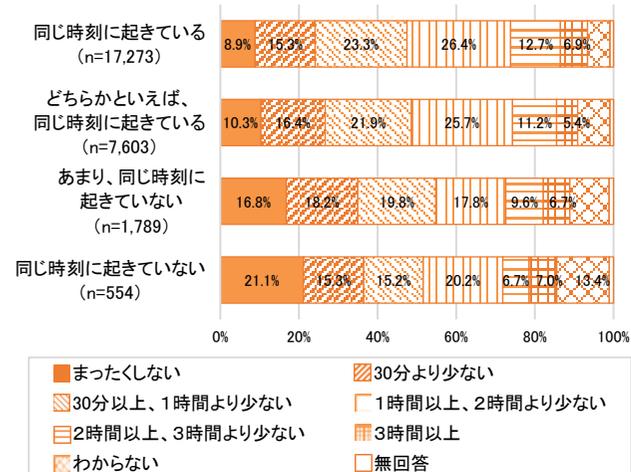
また、授業以外の読書時間についても、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 31.2%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では 37.6%となっています。

学校の勉強については、困窮度が高くなるにつれ「よくわかる」と回答する割合が低くなっており、中央値以上群では 28.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では 16.4%となっています。

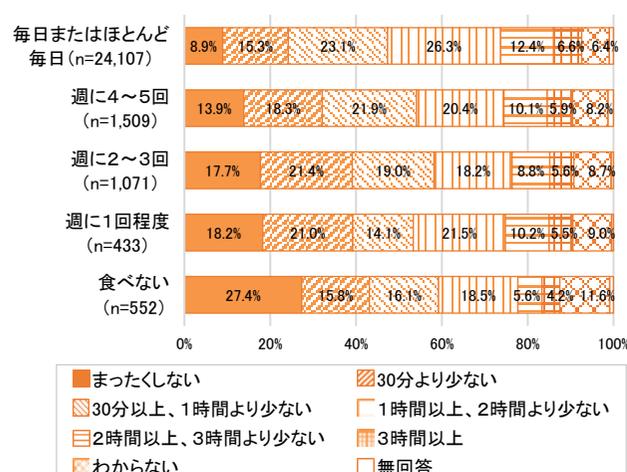
## 10 生活リズムと学習の状況(小5・中2のいる世帯)

### ・授業以外の勉強時間

#### 起床時間の規則性別 (new)



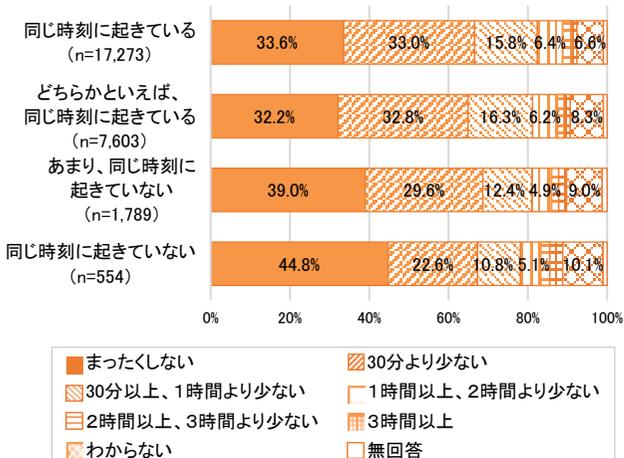
#### 朝食の頻度別 (new)



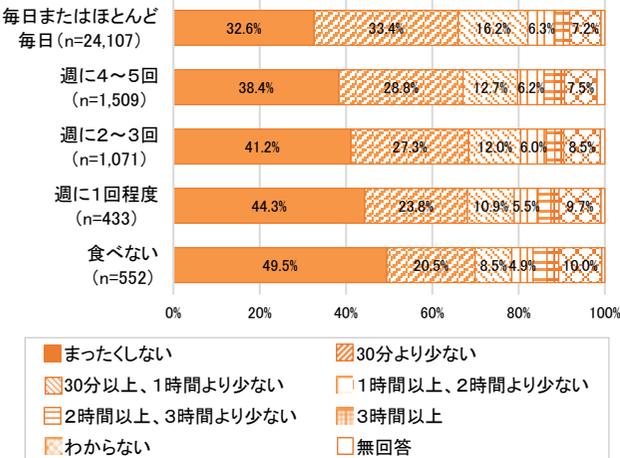
授業以外の勉強を「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 8.9%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 21.1%、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 8.9%であるのに対し、食べない群では 27.4%となっています。

### ・授業以外の読書時間

#### 起床時間の規則性別 (new)



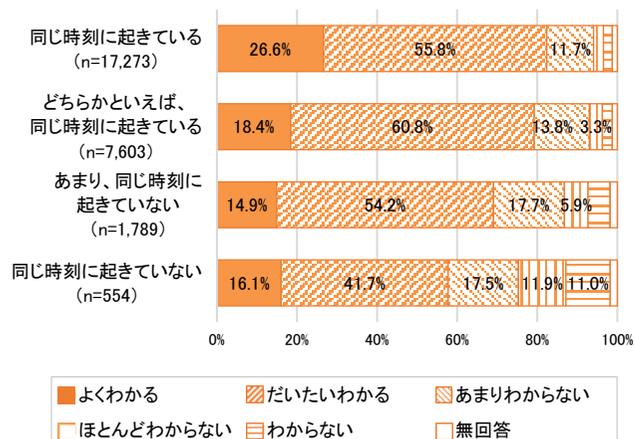
#### 朝食の頻度別 (new)



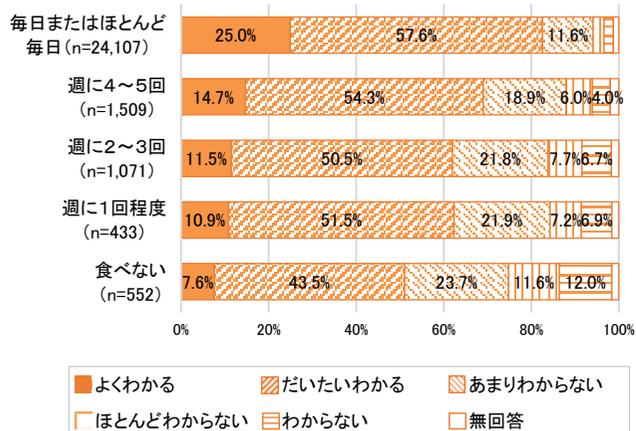
授業以外の読書を「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 33.6%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 44.8%、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 32.6%であるのに対し、食べない群では 49.5%となっています。

## ・学校の勉強

起床時間の規則性別 (new)



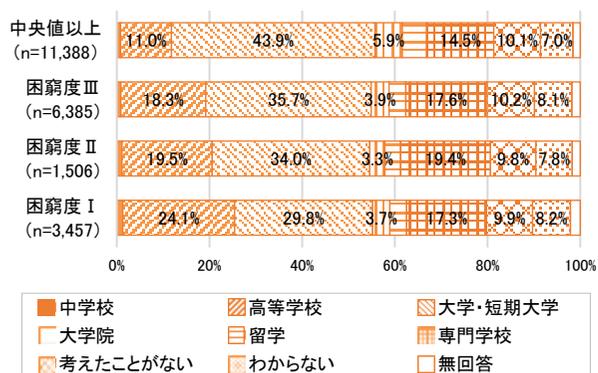
朝食の頻度別 (new)



「よくわかる」「だいたいわかる」の割合の合計は、同じ時刻に起きている群は 82.4%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 57.8%、毎日またはほとんど毎日群は 82.6%であるのに対し、食べない群では 51.1%となっています。

## 11 こどもが希望する進学先

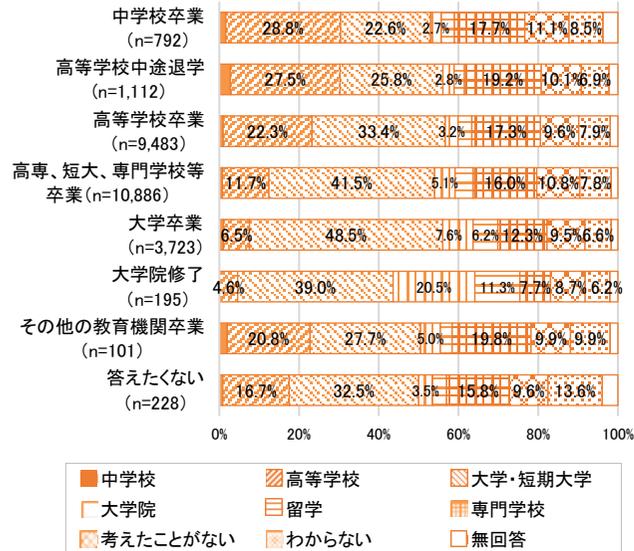
困窮度別 (図 239)



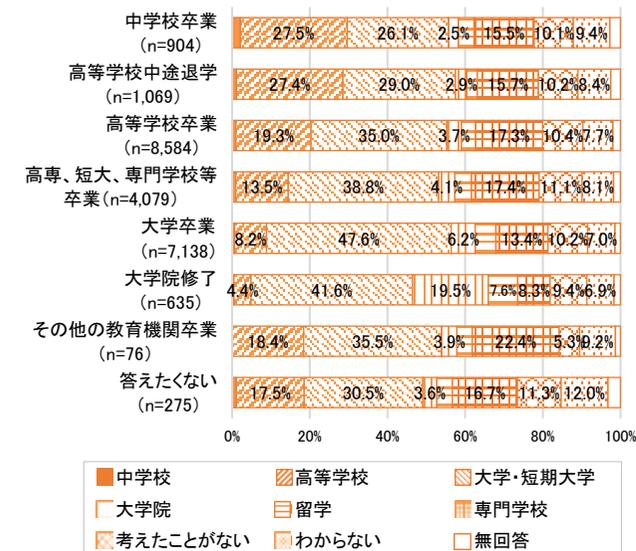
困窮度が高くなるにつれ、学歴の低い進学先を希望する割合が高くなり、高等学校を希望する割合は中央値以上群では 11.0%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 24.1%、大学・短期大学を希望する割合は、中央値以上群では 43.9%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 29.8%となっています。

・保護者の最終学歴別

母親の最終学歴別(図 213)



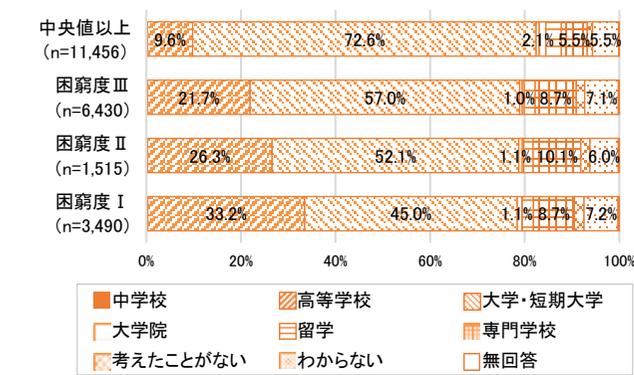
父親の最終学歴別(図 214)



父親、母親ともに最終学歴が中学校卒業又は高等学校中途退学の場合、こどもが中学校又は高等学校を希望する割合が約30%であるのに対し、父親、母親ともに最終学歴が大学卒業の場合、中学校又は高等学校を希望する割合は10%未満となっています。

12 困窮度別に見た保護者のこどもに対する進学予測

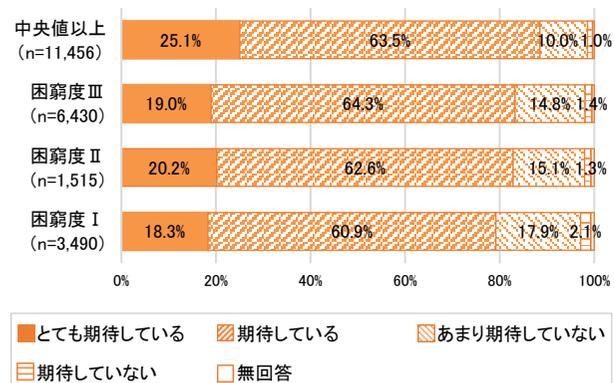
小5・中2のいる世帯(図 240)



困窮度別に保護者のこどもに対する進学予測を見ると、困窮度が高くなるにつれ、高等学校卒業までの割合が増えており、中央値以上群では9.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では33.5%となっています。

### 13 困窮度別に見た保護者の子どもに対する将来への期待

小5・中2のいる世帯(図 238)

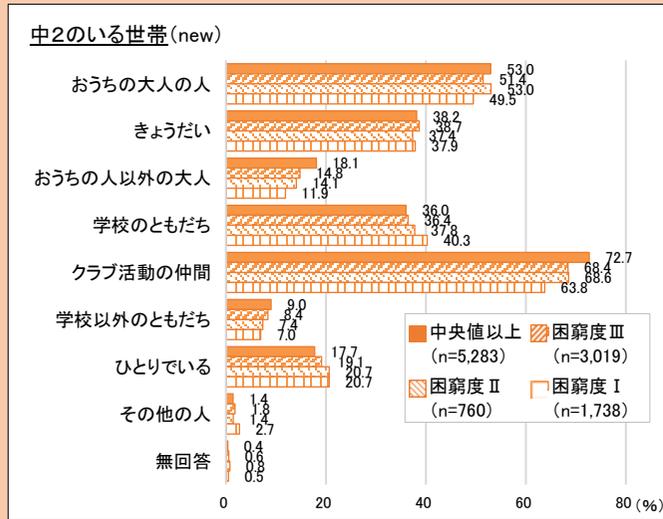
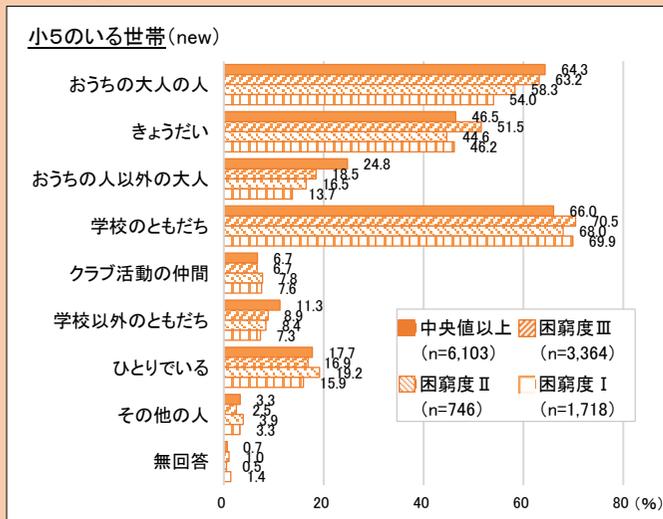


困窮度が高くなるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」の割合が増えており、中央値以上群では合計が11.0%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では、20.0%となっています。

# ソーシャルキャピタルの欠如の状況

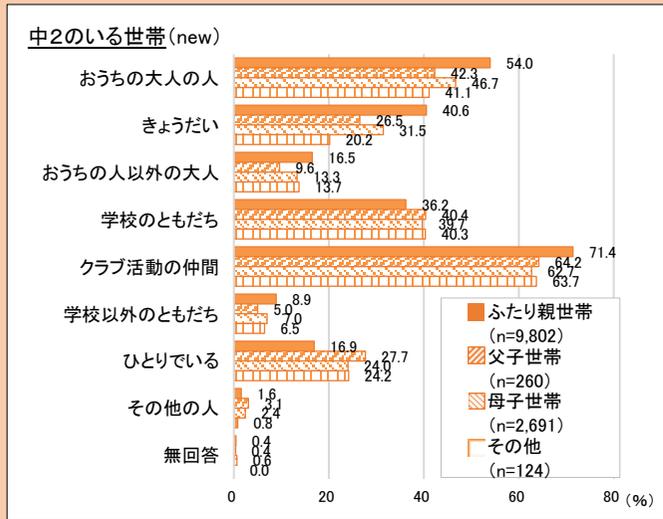
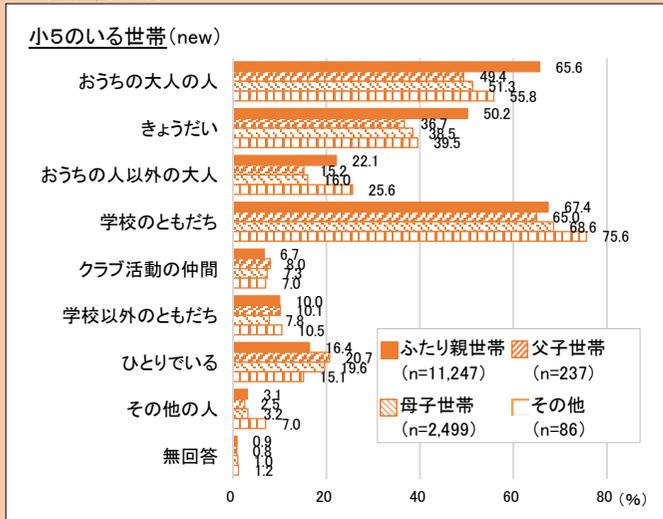
## 1 こどもが放課後に一緒に過ごす相手

### ・困窮度別



差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」が中央値以上群では 64.3%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 54.0%、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 24.8%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 13.7%、中学校2年生の場合、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 18.1%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 11.9%、「クラブ活動の仲間」が中央値以上群では 72.7%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 63.8%となっています。

### ・世帯構成別

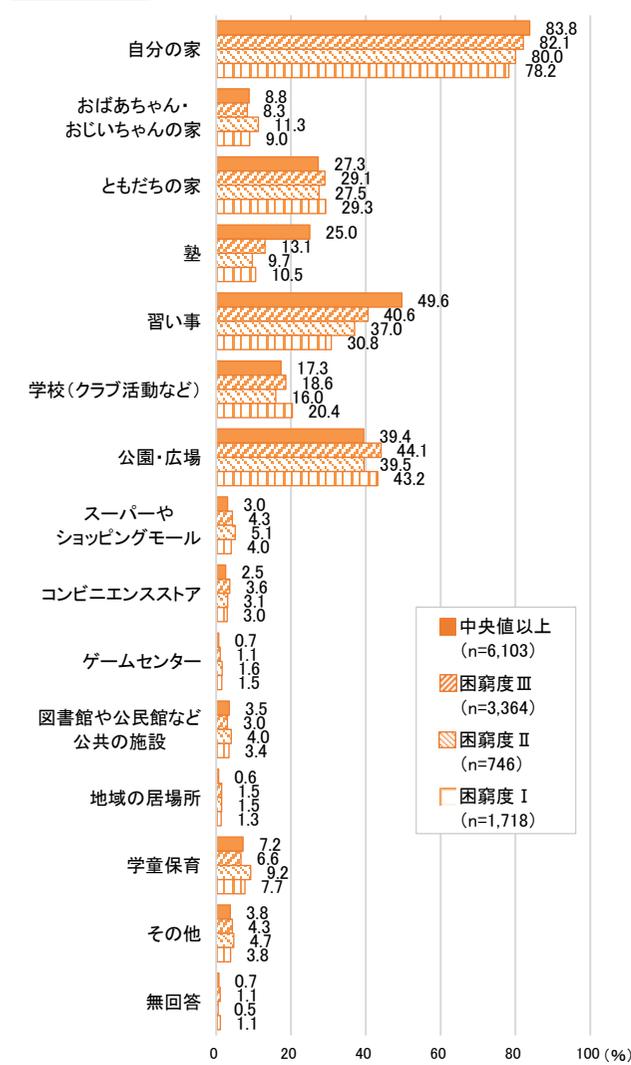


差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 65.6%であるのに対し、父子世帯では 49.4%、母子世帯では 51.3%、「きょうだい」がふたり親世帯では 50.2%であるのに対し、父子世帯では 36.7%、母子世帯では 38.5%、中学校2年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 54.0%であるのに対し、父子世帯では 42.3%、母子世帯では 46.7%、「きょうだい」がふたり親世帯では 40.6%であるのに対し、父子世帯では 26.5%、母子世帯では 31.5%、「クラブ活動の仲間」がふたり親世帯では 71.4%であるのに対し、父子世帯では 64.2%、母子世帯では 62.7%、「ひとりである」がふたり親世帯では 16.9%であるのに対し、父子世帯では 27.7%、母子世帯では 24.0%となっています。

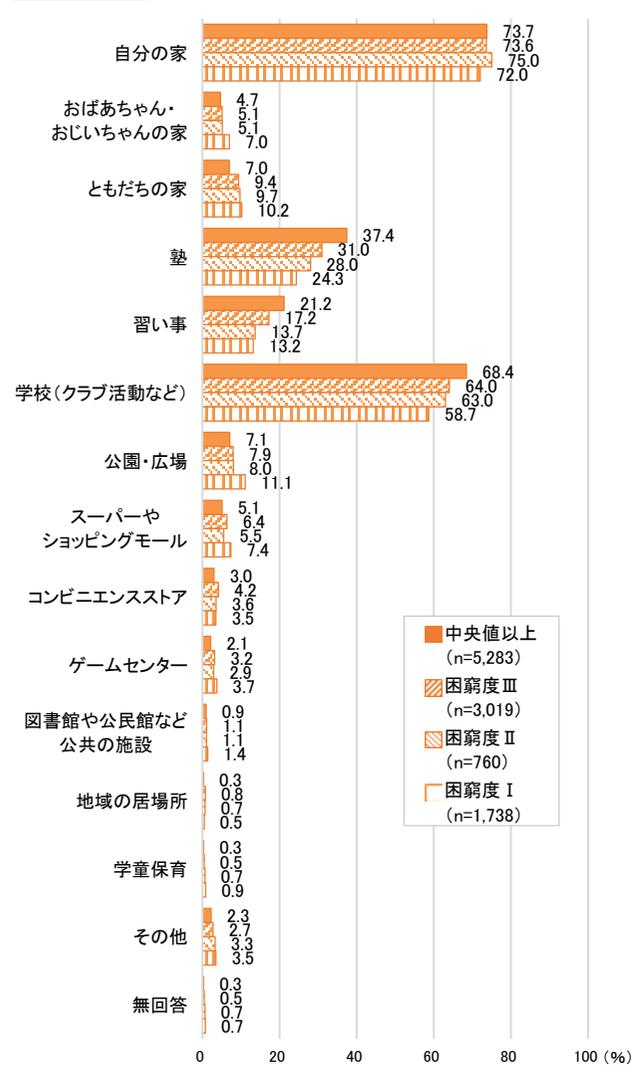
## 2 こどもが放課後に過ごす場所

### ・困窮度別

小5のいる世帯(new)



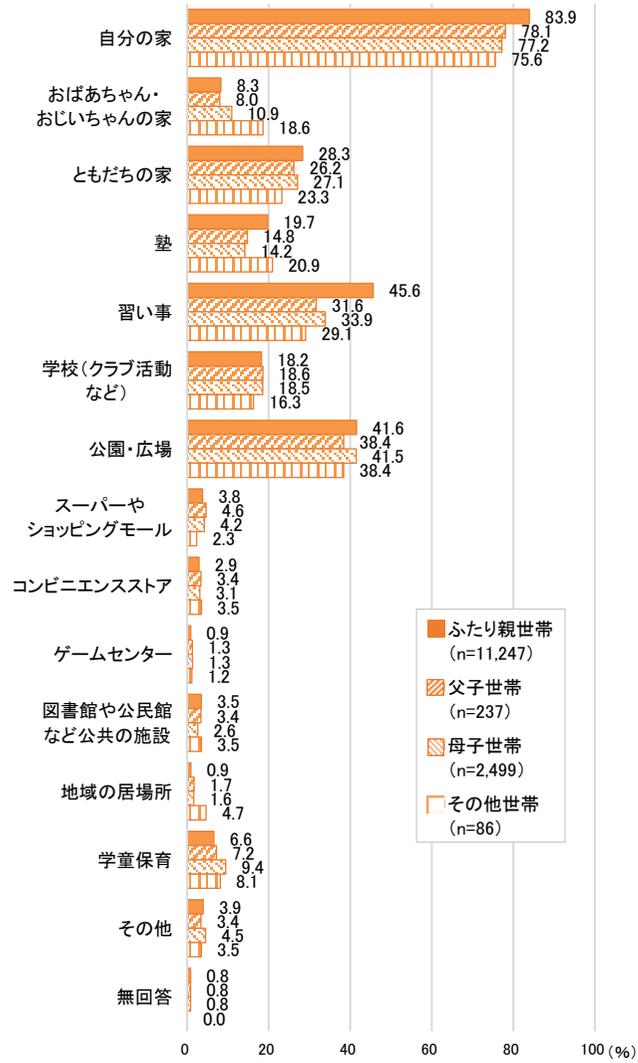
中2のいる世帯(new)



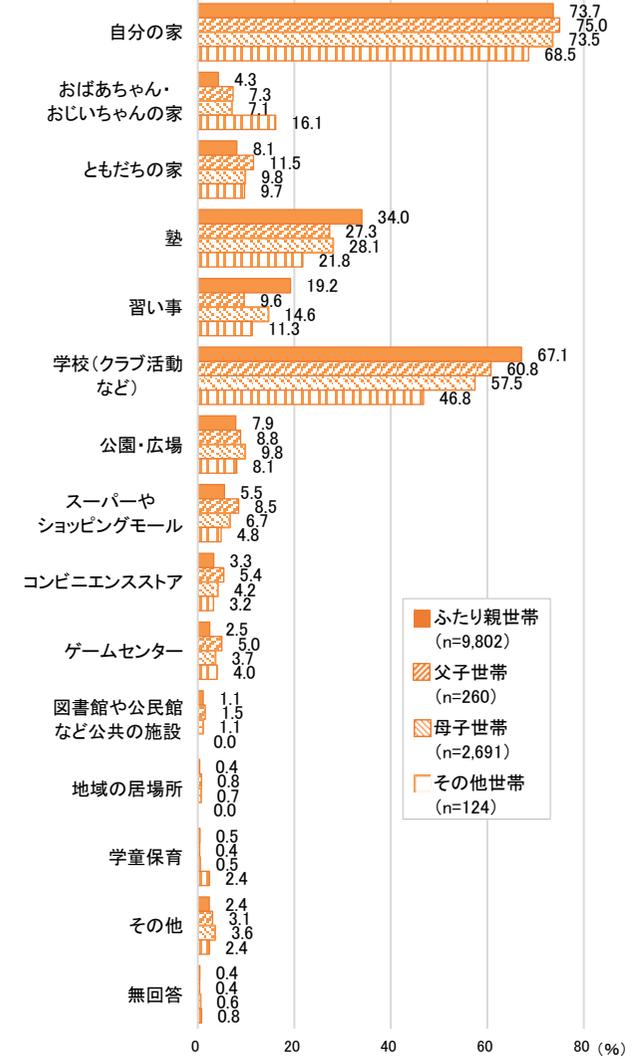
差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「塾」が中央値以上群では 25.0%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 10.5%、「習い事」が中央値以上群では 49.6%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 30.8%、中学校2年生の場合、「塾」が中央値以上群では 37.4%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 24.3%、「習い事」が中央値以上群では 21.2%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 13.2%、「学校(クラブ活動など)」が中央値以上群では 68.4%であるのに対し困窮度Ⅰ群では 58.7%となっています。

・世帯構成別

小5のいる世帯 (new)

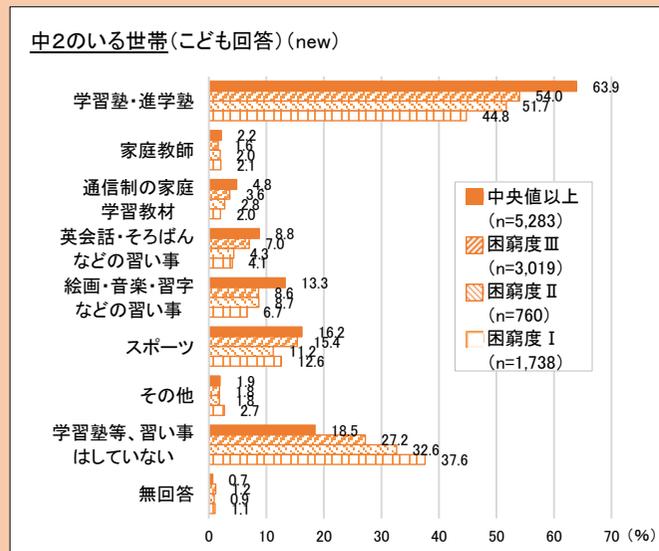
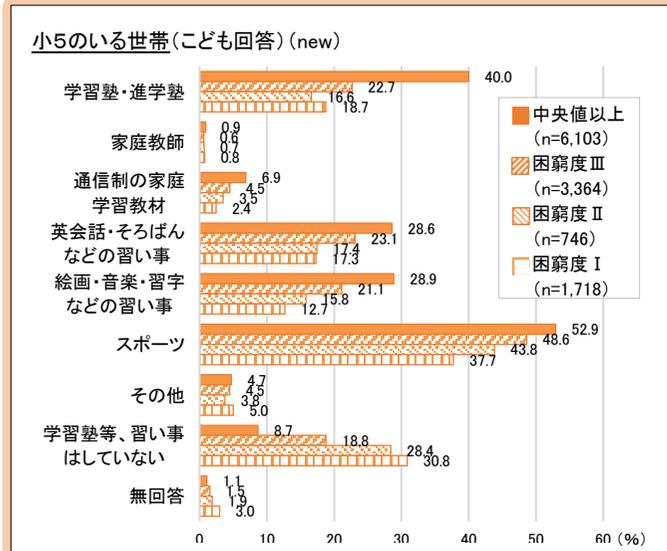


中2のいる世帯 (new)



差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「習い事」がふたり親世帯では 45.6% であるのに対し、母子世帯では 33.9%、父子世帯では 31.6%、中学校2年生の場合、「塾」がふたり親世帯では 34.0% であるのに対し、母子世帯では 28.1%、父子世帯では 27.3%、「習い事」がふたり親世帯では 19.2% であるのに対し、母子世帯では 14.6%、父子世帯では 9.6%、「学校(クラブ活動など)」がふたり親世帯では 67.1% であるのに対し、母子世帯では 57.5%、父子世帯では 60.8% となっています。

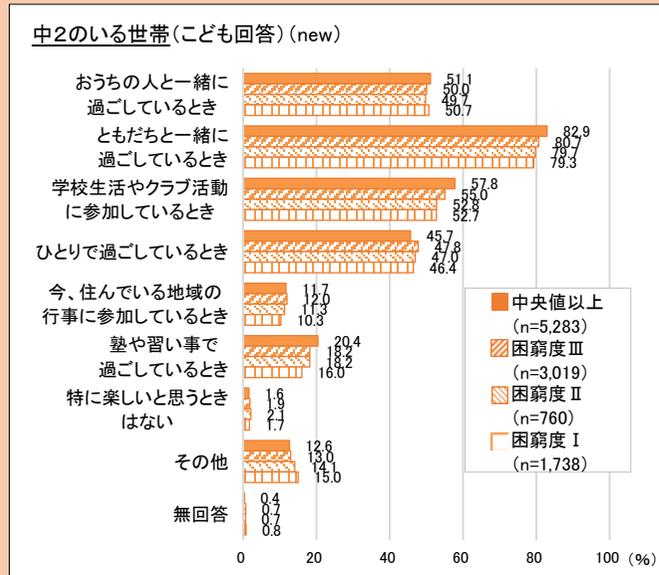
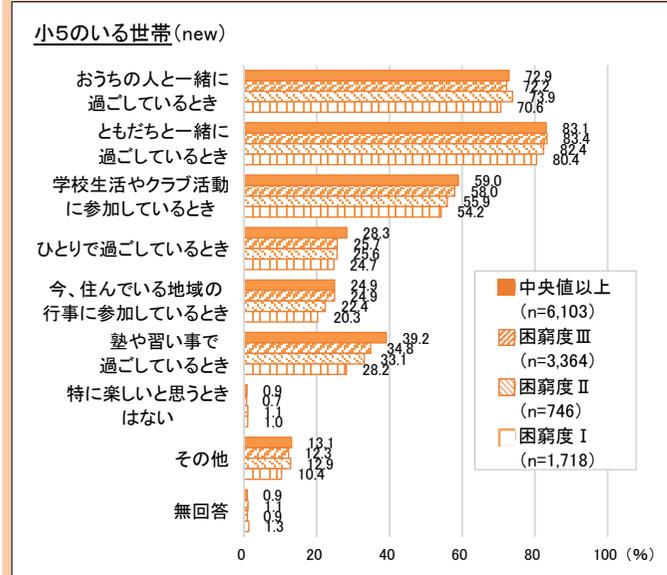
### 3 学習塾や習い事の利用状況



学習塾や習い事の利用状況は小学校5年生と中学校2年生とで大きく変わっていますが、どの利用先も困窮度が高くなるにつれて、利用している割合が低くなっています。

### 4 こどもの毎日の生活

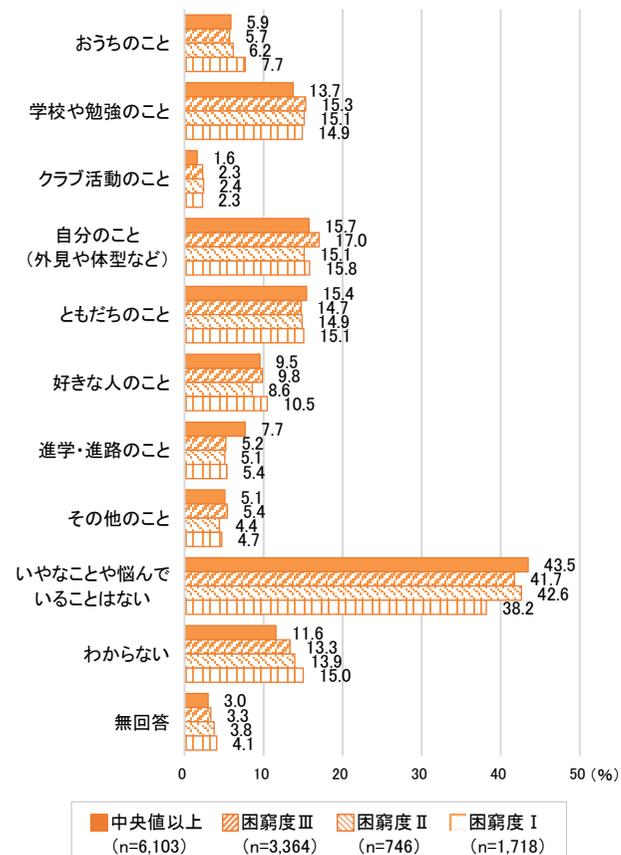
#### ・困窮度別に見た楽しいこと



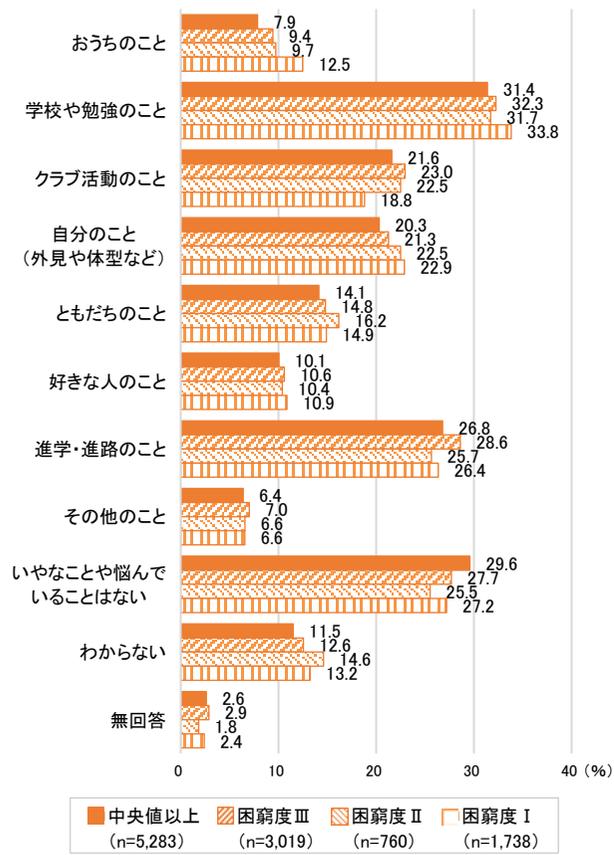
差が大きい項目を困窮度別に見ると、小学校5年生の場合、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」が中央値以上群では59.0%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では54.2%、「塾や習い事で過ごしているとき」が中央値以上群では39.2%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では28.2%、中学校2年生の場合、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」が中央値以上群では57.8%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では52.7%となっています。

・困窮度別に見た、悩んでいること

小5のいる世帯 (new)



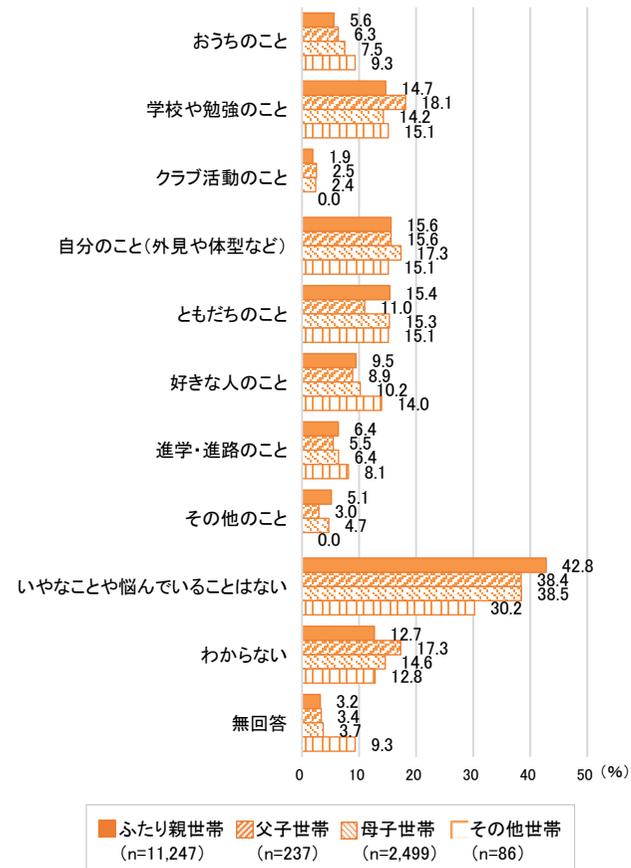
中2のいる世帯 (new)



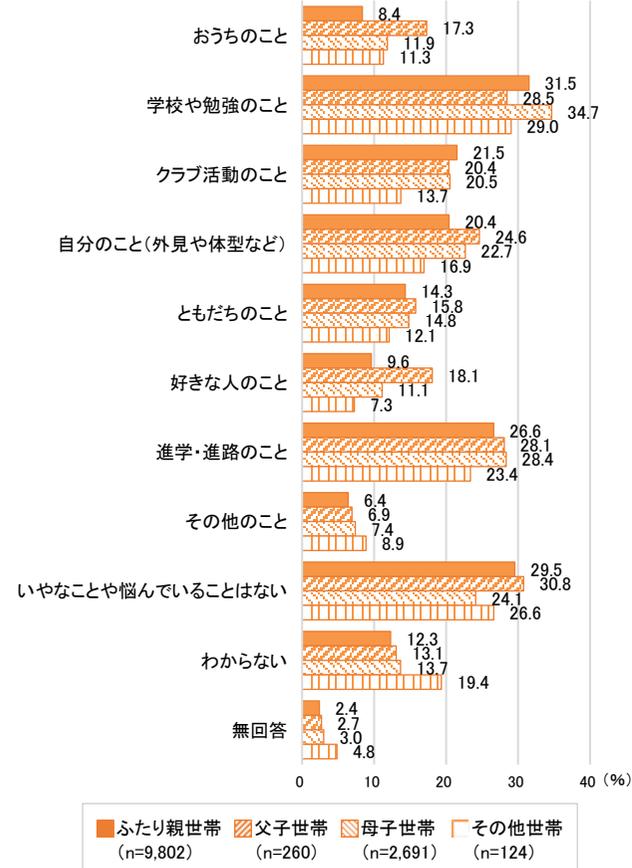
こどもの毎日の生活で悩んでいることについて、差が大きい項目を困窮度別に見ると、中学校2年生の場合、「おうちのこと」について中央値以上群では 7.9%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では 12.5%となっています。

・世帯構成別に見た、悩んでいること

小5のいる世帯 (new)



中2のいる世帯 (new)



こどもの毎日の生活で悩んでいることについて世帯構成別に見ると、中学校2年生の場合、「おうちのこと」が、ふたり親世帯では8.4%であるのに対し、母子世帯では11.9%、父子世帯では17.3%となっています。

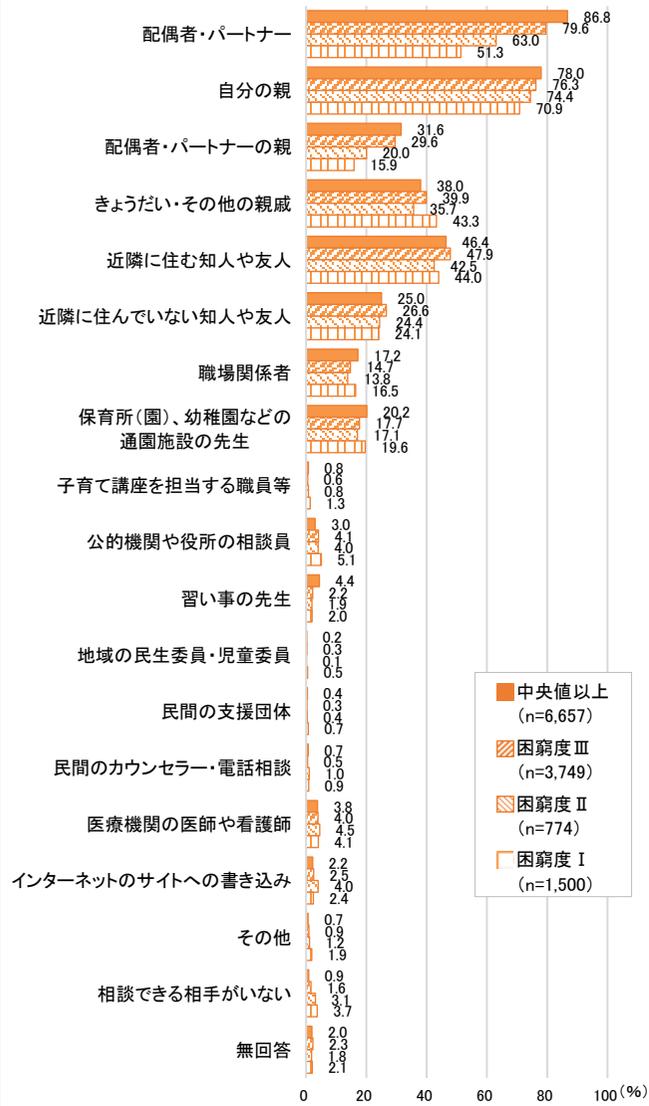
## 5 保護者が困ったときの相談先

### ・困窮度別に見た相談先

小5・中2のいる世帯(図 290)



5歳児のいる世帯(new)

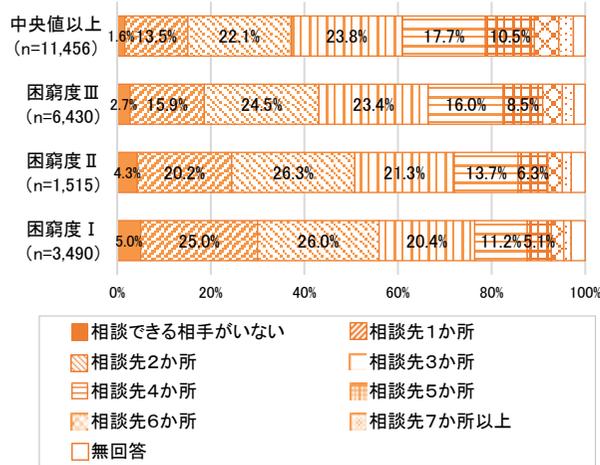


困窮度別の保護者が困ったときの相談先について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差が大きい項目に着目しながら困窮度Ⅰ群の数字を挙げると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、「地域の民生委員・児童委員」が0.4%(中央値以上群に対して4.0倍)、「相談できる相手がない」が5.0%(3.1倍)、「公的機関や役所の相談員」が3.8%(2.2倍)となっています。

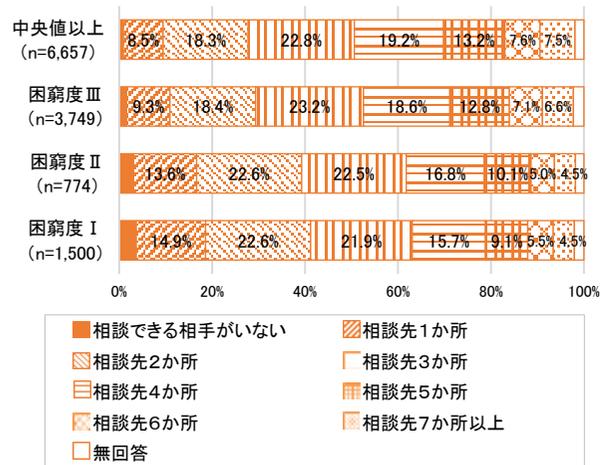
5歳児のいる世帯では、「相談できる相手がない」が3.7%(中央値以上群に対して4.1倍)、「地域の民生委員・児童委員」が0.5%(2.5倍)、「民間の支援団体」が0.7%(1.8倍)となっています。

・困窮度別に見た困ったときの相談先の箇所数

小5・中2のいる世帯 (new)



5歳児のいる世帯 (new)

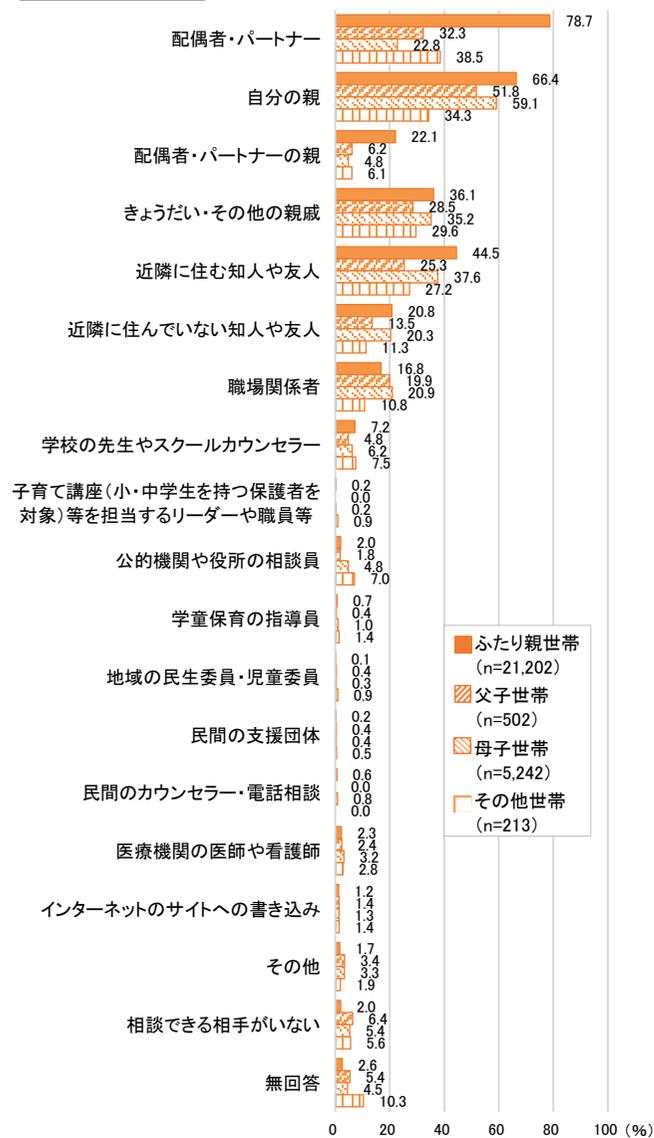


相談先の箇所数としてみた場合、困窮度が高くなるにつれ、相談できる相手がいないと相談先が1か所の割合の合計は高くなっており、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、中央値以上群は15.1%であるのに対し困窮度Ⅰ群は30.0%となっています。

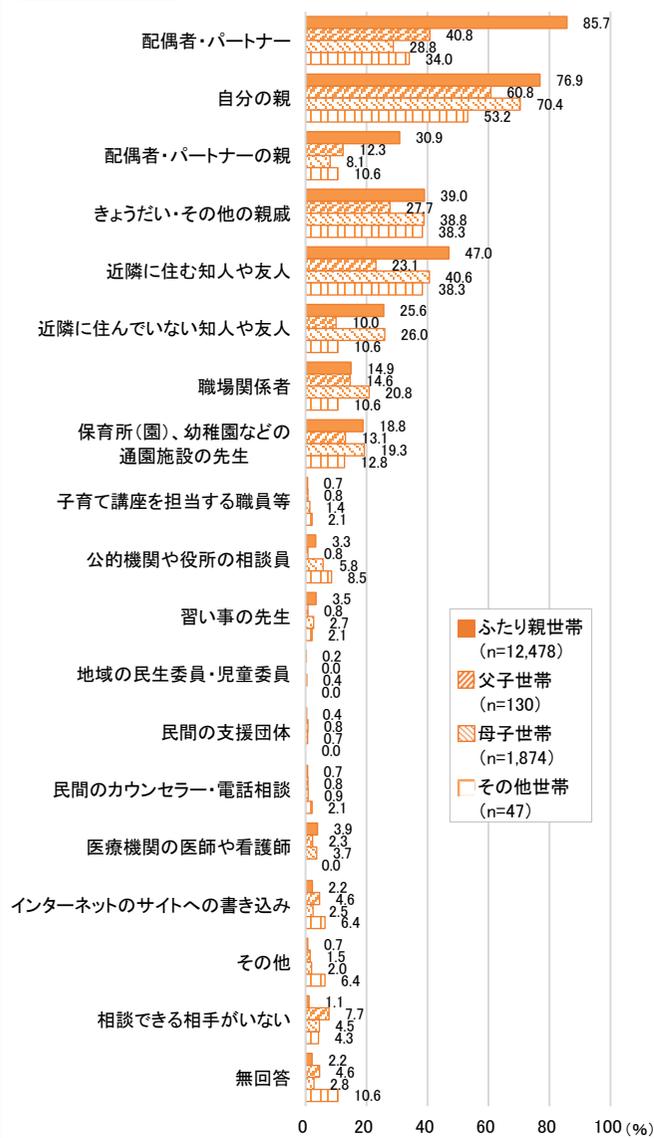
5歳児のいる世帯では、中央値以上群は9.4%であるのに対し困窮度Ⅰ群は18.6%となっています。

・世帯構成別に見た、保護者が困ったときの相談先

小5・中2のいる世帯 (図 291)



5歳児のいる世帯 (new)

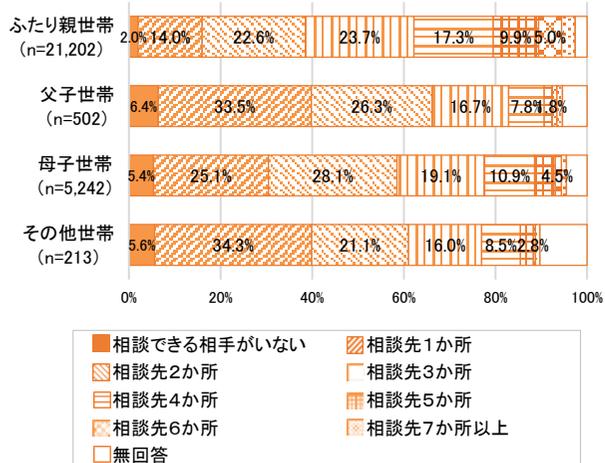


世帯構成別に保護者が困ったときの相談先について、「相談相手がいない」に着目すると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯は、ふたり親世帯で 2.0%、父子世帯で 6.4%、母子世帯で 5.4%となっています。

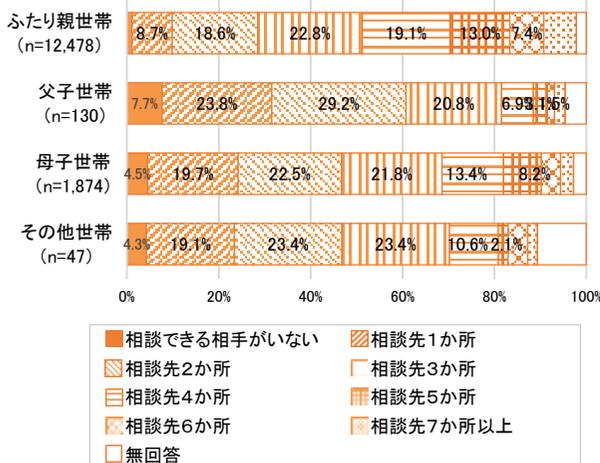
5歳児のいる世帯は、ふたり親世帯で 1.1%、父子世帯で 7.7%、母子世帯で 4.5%となっています。

・世帯構成別に見た困ったときの相談先の箇所数

小5・中2のいる世帯 (new)



5歳児のいる世帯 (new)

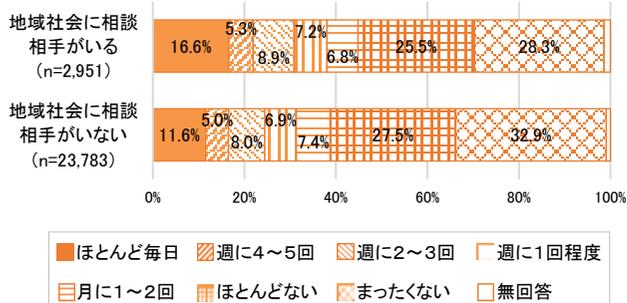


世帯構成別に相談先の箇所数をみると、相談できる相手がないと相談先が1か所の割合の合計は、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、ふたり親世帯は16.0%であるのに対し、母子世帯は30.5%、父子世帯は39.9%となっています。

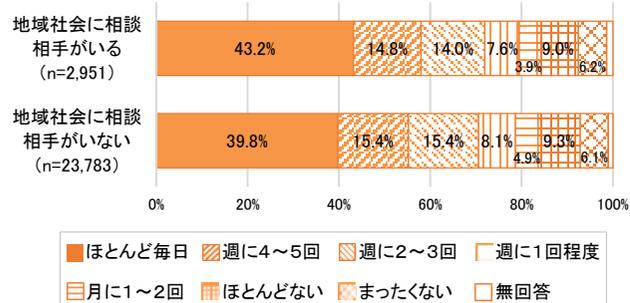
5歳児のいる世帯では、ふたり親世帯は9.9%であるのに対し、母子世帯は24.2%、父子世帯は31.5%となっています。

6 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

おうちの大人に宿題を見てもらうか (図 297)



おうちの大人と学校の話をするか (図 298)



地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わりを見ると、地域社会に相談相手がいる群の方が、「おうちの大人に宿題をみてもらう」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高く、「おうちの大人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっています。

※「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうちの少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」としています。